

## 【現代文化学】

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
8231	001	科学哲学科学史	特殊講義	2	前期	木2	伊藤 和行	現代文化学系1
8231	002	科学哲学科学史	特殊講義	2	後期	木2	伊藤 和行	現代文化学系2
8231	003	科学哲学科学史	特殊講義	2	前期	金2	伊勢田 哲治	現代文化学系3
8231	004	科学哲学科学史	特殊講義	2	後期	金2	伊勢田 哲治	現代文化学系4
8231	006	科学哲学科学史	特殊講義	2	後期	火3	瀬戸口 明久	現代文化学系5
8231	007	科学哲学科学史	特殊講義	2	前期	集中	隠岐 さや香	現代文化学系6
8241	001	科学哲学科学史	演習	2	前期	火3	伊藤 和行	現代文化学系7
8241	002	科学哲学科学史	演習	2	後期	火2	伊藤 和行	現代文化学系8
8241	003	科学哲学科学史	演習	2	前期	金3	伊勢田 哲治	現代文化学系9
8241	004	科学哲学科学史	演習	2	後期	金3	伊勢田 哲治	現代文化学系10
8241	005	科学哲学科学史	演習	2	前期	火5	矢田部 俊介	現代文化学系11
8241	006	科学哲学科学史	演習	2	後期	火5	矢田部 俊介	現代文化学系12
M383	001	科学哲学科学史	演習	2	前期	水4	伊藤 和行,伊勢田 哲治	現代文化学系13
M383	002	科学哲学科学史	演習	2	後期	水4	伊藤 和行,伊勢田 哲治	現代文化学系14
8931	001	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水2	永原 陽子	現代文化学系15
8931	002	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水3	藤原 辰史	現代文化学系16
8931	003	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水3	藤原 辰史	現代文化学系17
8931	004	メディア文化学	特殊講義	2	前期	月3	佐藤 卓己	現代文化学系18
8931	005	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水2	高木 博志	現代文化学系19
8931	006	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水4	小関 隆	現代文化学系20
8931	007	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水2	高木 博志	現代文化学系21
8931	008	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水4	小関 隆	現代文化学系22
8931	009	メディア文化学	特殊講義	2	後期	月4	西山 伸	現代文化学系23
8931	010	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水4	須田 千里	現代文化学系24
8931	011	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水4	須田 千里	現代文化学系25
8931	012	メディア文化学	特殊講義	2	後期	月3	庵途 由香	現代文化学系26
8931	014	メディア文化学	特殊講義	2	前期	月2	石尾和哉	現代文化学系27
8931	016	メディア文化学	特殊講義	2	後期	金2	研谷 紀夫	現代文化学系28
8931	019	メディア文化学	特殊講義	2	前期	木2	村上 衛	現代文化学系29
8931	020	メディア文化学	特殊講義	2	後期	木2	村上 衛	現代文化学系30
8931	021	メディア文化学	特殊講義	2	後期	木2	長 志珠絵	現代文化学系31
8931	022	メディア文化学	特殊講義	2	前期	金3	塩出 浩之	現代文化学系32
8931	023	メディア文化学	特殊講義	2	後期	金3	塩出 浩之	現代文化学系33
8931	024	メディア文化学	特殊講義	2	後期	月4	石井 香江	現代文化学系34
8941	001	メディア文化学	演習I	2	前期	水4	杉本 淑彦	現代文化学系35
8941	002	メディア文化学	演習I	2	後期	水4	杉本 淑彦,喜多千草	現代文化学系36
8944	001	メディア文化学	演習II	2	前期	月2	石川 禎浩	現代文化学系37
8944	002	メディア文化学	演習II	2	後期	月2	石川 禎浩	現代文化学系38
8944	003	メディア文化学	演習II	2	前期	集中	斎藤 理生	現代文化学系39
8944	004	メディア文化学	演習II	2	後期	集中	斎藤 理生	現代文化学系40
8944	005	メディア文化学	演習II	2	前期	火2	山本 昭宏	現代文化学系41
8944	006	メディア文化学	演習II	2	後期	火2	山本 昭宏	現代文化学系42
8944	007	メディア文化学	演習II	2	前期	月3	伊藤 遊	現代文化学系43
8944	008	メディア文化学	演習II	2	前期	集中	森下 達	現代文化学系44
8944	010	メディア文化学	演習II	2	通年	火3	杉本 淑彦,滑田 教夫	現代文化学系45
8944	011	メディア文化学	演習II	2	前期	月3	松田 利彦	現代文化学系46
8944	014	メディア文化学	演習II	2	前期	火3	小野沢 透	現代文化学系47
8944	015	メディア文化学	演習II	2	後期	火3	小野沢 透	現代文化学系48

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
8944	016	メディア文化学	演習II	2	後期	金2	朴珍姫	現代文化学系49
8944	017	メディア文化学	演習II	2	前期	月4	井上明人	現代文化学系50
M432	001	メディア文化学	演習	4	通年	水5	小野沢,杉本,永原,塩出	現代文化学系51
M433	001	メディア文化学	演習	2	通年	木3	杉本 淑彦	現代文化学系52
M433	002	メディア文化学	演習	2	前期	金5	駒込 武	現代文化学系53
M433	003	メディア文化学	演習	2	後期	金5	駒込 武	現代文化学系54
8433	001	現代史学	特殊講義	2	後期	水2	永原 陽子	現代文化学系55
8433	002	現代史学	特殊講義	2	後期	月3	庵途 由香	現代文化学系56
8433	003	現代史学	特殊講義	2	後期	月4	石井 香江	現代文化学系57
8433	004	現代史学	特殊講義	2	前期	水3	藤原 辰史	現代文化学系58
8433	005	現代史学	特殊講義	2	後期	水3	藤原 辰史	現代文化学系59
8433	006	現代史学	特殊講義	2	前期	水2	高木 博志	現代文化学系60
8433	007	現代史学	特殊講義	2	後期	水2	高木 博志	現代文化学系61
8433	008	現代史学	特殊講義	2	前期	木2	村上 衛	現代文化学系62
8433	009	現代史学	特殊講義	2	後期	木2	村上 衛	現代文化学系63
8433	010	現代史学	特殊講義	2	後期	月4	西山 伸	現代文化学系64
8433	011	現代史学	特殊講義	2	前期	月3	佐藤 卓己	現代文化学系65
8433	012	現代史学	特殊講義	2	後期	水2	帯谷 知可	現代文化学系66
8433	013	現代史学	特殊講義	2	前期	水4	小関 隆	現代文化学系67
8433	014	現代史学	特殊講義	2	後期	水4	小関 隆	現代文化学系68
8433	015	現代史学	特殊講義	2	前期	月2	伊藤 順二	現代文化学系69
8433	016	現代史学	特殊講義	2	後期	月2	伊藤 順二	現代文化学系70
8433	017	現代史学	特殊講義	2	前期	水3	江田 憲治	現代文化学系71
8433	018	現代史学	特殊講義	2	後期	水3	江田 憲治	現代文化学系72
8433	019	現代史学	特殊講義	2	前期	金3	塩出 浩之	現代文化学系73
8433	020	現代史学	特殊講義	2	後期	金3	塩出 浩之	現代文化学系74
8433	021	現代史学	特殊講義	2	後期	木2	長 志珠絵	現代文化学系75
8433	022	現代史学	特殊講義	2	前期	火3	福家崇洋	現代文化学系76
8433	023	現代史学	特殊講義	2	前期	集中	竹永三男	現代文化学系77
8448	001	現代史学	演習II	2	前期	月2	石川 禎浩	現代文化学系78
8448	002	現代史学	演習II	2	後期	月2	石川 禎浩	現代文化学系79
8448	003	現代史学	演習II	2	前期	火3	小野沢 透	現代文化学系80
8448	004	現代史学	演習II	2	後期	火3	小野沢 透	現代文化学系81
8448	005	現代史学	演習II	2	前期	木3	富永 望	現代文化学系82
8448	006	現代史学	演習II	2	後期	木3	富永 望	現代文化学系83
8448	007	現代史学	演習II	2	前期	月3	松田 利彦	現代文化学系84
8448	008	現代史学	演習II	2	前期	火2	山本 昭宏	現代文化学系85
8448	009	現代史学	演習II	2	後期	火2	山本 昭宏	現代文化学系86
8448	010	現代史学	演習II	2	後期	金2	朴 珍姫	現代文化学系87
8452	001	現代史学	演習IIIA	2	前期	火5	小野沢 透,永原 陽子,塩出 浩之	現代文化学系88
8452	002	現代史学	演習IIIB	2	後期	火5	小野沢 透,永原 陽子,塩出 浩之	現代文化学系89
M412	001	現代史学	演習	4	通年	水5	小野沢,杉本,永原,塩出	現代文化学系90
M415	001	現代史学	演習II	2	前期	金5	駒込 武	現代文化学系91
M415	002	現代史学	演習II	2	後期	金5	駒込 武	現代文化学系92

## 現代文化学系1

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊藤 和行			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ラザフォードと原子核物理学の誕生									
【授業の概要・目的】											
この授業では、英国の物理学者ラザフォード（Ernst Rutherford）を中心に、20世紀初頭における原子核物理学の誕生の過程を検討する。この時期には、放射線、放射能、放射性崩壊が相次いで発見され、原子内の現象を扱う原子核物理学が誕生した。この研究で中心的な役割を果たしたラザフォードの論文の読解を通じてこの過程を考察する。											
【到達目標】											
20世紀初頭の物理学の発展、とくに原子核物理学の誕生について歴史的理解を深め、この時代の科学史一次文献の読解についての基礎的な能力を獲得する											
【授業計画と内容】											
以下の項目に従って進める予定である。 それぞれについて1-3回程度を当てる。 後半では、出席者に論文の読解をしてもらう予定である。 1：イントロダクション 20世紀初頭の物理学 放射線・放射能・放射性崩壊の発見 ラザフォードの人生と業績 2：ラザフォードらの論文の読解 放射性と放射能 粒子 放射性崩壊 フィードバックについては、授業内に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点とレポートによって評価する（各50％）。											
【教科書】											
使用しない 授業で使用するテキストは、担当教員が用意して配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 西尾成子 『こうして始まった20世紀の物理学』（裳華房）											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 科学哲学科学史(特殊講義)(2)

ハイルブロン 『アーネスト・ラザフォード 原子の宇宙の核心へ』 (大月書店)  
ワイバーグ 『新版 電子と原子核の発見』 (筑摩書房)  
授業中に紹介する。

### [授業外学習 (予習・復習) 等]

授業中に配布するテキストや参考資料を、授業前および授業後に熟読すること。  
また授業中に紹介する参考文献を適宜読むように。

### (その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系2

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊藤 和行			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		大森房吉と近代地震学の誕生									
【授業の概要・目的】											
この授業では、近代地震学の父と呼ばれる大森房吉の業績を取り上げ、19世紀末から20世紀初頭の日本における地震学、そして地球物理学について検討する。大森房吉の代表的業績である「大森公式」のほか、地震予知をめぐる議論に関しても考察する。											
【到達目標】											
地震学を中心として、20世紀初頭の日本の科学の発展について理解し、この時期の科学史一次文献の読解についての基礎的な能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
以下の項目に従って進める予定である。 後半では、出席者にも論文の読解をしてもらう予定である。 1：イントロダクション（各1回） 明治以降の科学の発展と地震学の誕生 大森房吉の人生と背景 2：大森房吉の科学的業績の検討（各3-5回） 余震回数の変化的変化 初期微動継続時間と震源までの距離の関係 地震予知  フィードバックについては、授業内に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点とレポートによって評価する（各50％）。											
【教科書】											
授業で必要なテキストは、担当教員が用意して配布する。											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 科学哲学科学史(特殊講義)(2)

### [参考書等]

(参考書)

上山昭博 『地震学をつくった男・大森房吉』(青土社)  
金凡性 『明治・大正の日本の地震学』(東京大学出版会)  
授業中に紹介する。

### [授業外学習(予習・復習)等]

授業中に配布するテキストや参考資料を、授業前および授業後に熟読すること。  
授業中に紹介する文献を適宜読むように。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系3

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		リスクの哲学 Philosophy of Risk									
【授業の概要・目的】											
<p>この特殊講義のテーマは科学の哲学的側面にかかわるさまざまな話題をとりあげる形で毎年変更されます。今回は科学技術にまつわるリスクを哲学的観点から考えます。リスクにまつわる哲学的な問題としては、リスクとはそもそも何か、リスクについてどのような考え方をすればよいか、リスクについて誰にどのような責任があるか、などがあります。この授業では、2012年に出版された『リスク理論ハンドブック』などをてがかりにこれらの問題を順次扱って行きます。また、日本においてリスクをめぐるコミュニケーションや意思決定の問題は特殊な現れ方をしています。そうした特有な側面についても事例を使いながらあわせて考えて行きたいと思えます。</p> <p>The topic of this special lecture varies every year, picking up various topics related to the philosophical aspects of science. This year, we examine risks associated with science and technology from philosophical points of view. To name some philosophical issues related to risk: what is a risk in the first place?; in what way should we think about risk?; who are responsible for risks and in what way? In this class we discuss these issues one by one using mainly a 2012 book titled Handbook of Risk Theory as the guide. In addition, the issue of risk communication and decision making figures in a peculiar manner in Japan; we deal with such peculiar aspects in this class using concrete cases.</p>											
【到達目標】											
<p>科学に対する哲学的なものの見方というのがどのようなものかを理解する。とりわけ、今年度の授業においては、授業内で紹介する議論や観点を理解し、それがリスクの問題とどう関わるかを理解する。</p> <p>To understand philosophical way of looking at science. In particular, this year, this means understanding arguments and positions introduced in the class and seeing what are their implications for the issue of risk.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業は日本語と英語で行われます。          以下は扱うトピックの暫定的リストです。（一項目に1-2週かけます）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 リスクの哲学の全体像</li> <li>2 リスクと安全の概念</li> <li>3 文化としてのリスク</li> <li>4 事例研究（1）：公衆衛生とリスク</li> <li>5 リスクと決定理論</li> <li>6 リスク認知</li> <li>7 リスクの倫理学</li> <li>8 事例研究（2）：地震のリスク</li> <li>9 リスクと公平性</li> </ol>											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 科学哲学科学史(特殊講義)(2)

### 1 0 リスクと責任

#### 1 1 事例研究(3): 原子力のリスク

課題についてのフィードバック方法は授業内で説明します。

The lectures will be given both in Japanese and English.

Tentative list of topics (we will spend one or two weeks for each topic)

1. Overall picture of philosophy of risk
2. Concepts of risk and safety
3. Risk as culture
4. Case study (1) : public health and risk
5. Risk and decision theory
6. Risk perception
7. Ethics of risk
8. Case study (2): risk of earthquake
9. Risk and impartiality
10. Risk and responsibility
11. Case study (3): risk of nuclear energy

Regarding the feedback on your assignments, more information will be given in the class.

### 【履修要件】

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

中間の論文計画の提出(25%)と期末論文の提出(75%)を総合して100点満点(60点以上合格)で評価する。

評価は、授業で取り上げられた理論が適切に理解できているか、そうした理論が適切に具体例に適用できているか、という視点から行われる。講師の中間論文計画へのコメントへの反応も評価の対象となる。

A midterm paper project and the final paper. The project and the final paper as a whole is evaluated numerically, where the full mark is 100 and a passing mark is above 60.

The assessment is done from the viewpoint of (1) whether the paper reflects proper understanding of the theories discussed in the class and (2) whether the theories are properly applied to concrete cases.

Responsiveness to the instructor's comment to the paper project is also assessed.

### 【教科書】

主に以下の書籍から関連箇所を授業内で配布

Sabine Roeser et al. eds. (2012) Handbook of Risk Theory: Epistemology, Decision Theory, Ethics, and Social Implications of Risk, two vols. Springer.

科学哲学科学史(特殊講義)(3)へ続く

### 科学哲学科学史(特殊講義)(3)

Main readings are relevant chapters of the following book, which will be distributed in the class.  
Sabine Roeser et al. eds. (2012) Handbook of Risk Theory: Epistemology, Decision Theory, Ethics, and Social Implications of Risk, two vols. Springer.

#### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

#### [授業外学習(予習・復習)等]

宿題となったリーディングは事前に読み、クラスディスカッションに参加できるようにしておくことを求めます。

Students are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

#### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.  
Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系4

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		科学的实在論論争の過去と現在									
【授業の概要・目的】											
科学的实在論論争は、科学が指定する観察不可能な対象の存在についてどのような態度をとるべきかということについての論争である。この論争の基本的な枠組みは1980年代につくられたが、関連する論争はそれ以前から行われており、なぜこの論争が現在の形をとっているかを理解するには、それまでの流れを理解することも重要である。今回の授業では、科学哲学において「实在」がどのように論じられてきたのかを歴史的なパースペクティブの上で捉え直すとともに、現在論争がどのような状況にあるか、とりわけ科学の諸分野における实在の問題について何が論じられているかを紹介する。											
【到達目標】											
科学的实在論論争の歴史的な展開を理解するとともに、科学が指定する対象への態度について現在どのような立場があるか、および、さまざまな領域でこの問題がどのような形をとっているかを理解し、批判的な検討ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下のようなテーマを扱う予定（一項目に1-2週かける）											
第一部 歴史的背景											
1 19世紀の論争											
2 論理実証主義の实在に関する立場											
3 論争の成立											
第二部 現在の論争											
4 構成的経験主義											
5 悲観的帰納法と想定されざる対案											
6 選択的实在論											
7 パースペクティブ主義											
第三部 さまざまな領域における实在の問題											
8 物理学における实在論											
9 歴史科学における实在論											
10 化学における实在論											
11 認知科学における实在論											
12 まとめ											
課題についてのフィードバック方法は授業内で説明します。											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 科学哲学科学史(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

二回のレポートで評価を行う(各50%)。評価は授業内容をどの程度理解できているか、またその理解した内容をどの程度活用して具体例が分析できているか、という視点から行う。

### 【教科書】

以下の書籍からリーディングとして使用する部分を授業内で配布  
Saatsi, ed. (2018) Routledge Handbook for Scientific Realism. Routledge.

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学習（予習・復習）等】

宿題となったリーディングは事前に読み、クラスディスカッションに参加できるようにしておくことを求める。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系5

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 瀬戸口 明久			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		環境としての科学技術									
【授業の概要・目的】											
この授業では、科学技術がどのように現代の環境をつくりあげているのか考える。現代においては、科学技術は単なる道具ではなく、私たちが生きる世界そのものをつくりあげている。それはどのようなものか、科学技術史と科学技術論の両面から検討していく。話題はおもに日本における歴史的な事例から取り上げるが、世界的な文脈についても視野に入れて論じる。											
【到達目標】											
科学技術がつくりあげる世界についての理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．科学技術がつくる環境【2週】 ガイダンス、3.11と科学技術論</li> <li>2．自然環境【3週】 野生動物、野鳥、害虫</li> <li>3．地下の人工環境【2週】 炭鉱、地下街、大気</li> <li>4．都市の人工環境【2週】 時間、鉄道</li> <li>5．人工環境としての地球【2週】 情報社会、人新世</li> <li>6．環境の科学技術論【2週】 技術哲学、技術史</li> <li>7．まとめと総括【1週】</li> <li>8．フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
最終レポート（60％）、中間レポート（2回、40％）											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

参考文献については授業中にリストを配布する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系6

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		名古屋大学大学院経済学研究科 隠岐 さや香 教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		自然科学と人文社会科学の系譜学									
【授業の概要・目的】											
<p>近年は自然科学史だけでなく、経済学・社会学などの社会科学（Social Science）や文学・文献学などの人文（科）学（Humanities）の歴史研究が進展し、忘れられていた諸学の間の関係性や影響関係が見直されつつある。この講義ではいくつかの具体的事例や史料を用いつつ、主に17-19世紀の西欧世界で、自然科学・社会科学・人文科学という三つの分類が出現する経緯を思想史的に考察する。それにより、いわゆる文系・理系を越えた知の歴史として科学史を理解する視座の獲得を目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>本講義の目標は、以下の二点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自然科学・社会科学・人文社会科学について思想史的に考察する姿勢を身につける。</li> <li>2) 異分野間の影響関係について具体的な事例から理解する。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 人文主義とアカデミーの文化</li> <li>3. 17世紀における科学と政治(1)統治の技法</li> <li>4. 17世紀における科学と文芸(2)分野別アカデミー</li> <li>5. 『百科全書』時代の学問体系</li> <li>6. 蓋然性の探究と法学・数学</li> <li>7. 18世紀の道德科学（1）コンドルセの社会数学</li> <li>8. 18世紀の道德科学（2）文明史と進歩主義思想</li> <li>9. 19世紀の道德科学（1）観念の分析・統計学</li> <li>10. 19世紀の道德科学（2）政治経済学・司法</li> <li>11. 自然科学から社会科学へ：ジョン・スチュアート・ミルの『論理学』</li> <li>12. 社会科学から自然科学へ：ダーウィニズムと「分業」観</li> <li>13. 「人文（科）学」の目覚めと自然科学</li> <li>14. 人文社会科学・自然科学とジェンダー</li> <li>15. 総合討論</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業参加(30%)  
授業終了時のレポート(70%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

講義中に指示をする。  
ただし講義への積極的な参加と、講義中に提示された文献の読解を推奨したい。

(その他(オフィスアワー等))

シラバスは変更することがある。変更の場合は授業内で通知する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊藤 和行			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		マクリントックと「動く遺伝子」の発見									
【授業の概要・目的】											
この授業では、米国の遺伝学者マクリントック（Barbara McClintock）を取り上げ、20世紀中頃の遺伝学の歴史に関する理解を深める。マクリントックは、トウモロコシにおける「動く遺伝子」（トランスポゾン）の発見によって、ノーベル生理学賞を受賞している。彼女の論文の読解を通じて、当時の遺伝学の実験と理論について考察する。											
【到達目標】											
20世紀の遺伝学の発展についての理解を得るとともに、英語の原典史料を読解する能力を獲得することを旨とする。											
【授業計画と内容】											
イントロダクション（2回）ののち、マッキントックの英語論文を読解する（第3回以降）。以下の項目に従って進める予定である。 1：イントロダクション 20世紀遺伝学の概要 マクリントックの人生と行政記 2：マクリントックの論文読解（読解する論文の順序については出席者と相談の上決定する） "Correlation of cytological and genetical crossing-over in Zea mays." (1931) "Mutable loci in maize." (1951) "The significance of responses of the genome to challenge"(Nobel lecture) (1983) フィードバックについては、授業内に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点とレポートによって評価する（各50％）。											
【教科書】											
授業中に指示する 授業で使用するテキストは、担当教員が用意して配布する。											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

## 科学哲学科学史(演習)(2)

### [参考書等]

(参考書)

ケラー 『動く遺伝子 トウモロコシとノーベル賞』(晶文社)

渡辺政隆 『DNAの謎に挑む』(朝日新聞社)

授業中に紹介する。

### [授業外学習(予習・復習)等]

授業中に配布するテキストや参考資料を、授業前および授業後に熟読すること。

授業中に紹介する文献を適宜読むように。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系8

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊藤 和行			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ナイチンゲールと医療統計の誕生									
[授業の概要・目的]											
この授業では、ナイチンゲール（Florence Nightingale）を取り上げ、19世紀における医療統計学の誕生過程に関する理解を深める。ナイチンゲールは、クリミア戦争における英国軍病院の状況に関する統計報告を作成したが、これは医療統計の始まりと評価されている。この報告書の読解を通じて、当時の統計学について考察する。											
[到達目標]											
19世紀中頃の医療統計学についての理解を得るとともに、19世紀の英語科学文献を読解する基礎的な能力を獲得することを目指す。											
[授業計画と内容]											
最初の2回程度をイントロダクションにあて、第3回からはナイチンゲールの報告書を読解する。以下の項目に従って進める予定である。 1：イントロダクション 19世紀の医療と統計学 ナイチンゲールの人生と業績 2：ナイチンゲールの医療統計学の報告書の読解 Notes on Matters Affecting the Health, Efficiency and Hospital Administration of the British Army (London, 1858) フィードバックについては、授業内に指示する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点とレポートによって評価する（各50％）。											
[教科書]											
授業で使用するテキストは、担当教員が準備して配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 多尾清子『統計学者としてのナイチンゲール』（医学書院） 小玉香津子『ナイチンゲール』（清水書院） 授業中に紹介する。											
[授業外学習（予習・復習）等]											
授業中に配布するテキストや参考資料を、授業前および授業後に熟読すること。 授業中に紹介する文献を適宜読むように。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 現代文化学系9

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		フィールド科学における測定									
【授業の概要・目的】											
<p>科学哲学は伝統的に物理学をはじめとした厳密科学を主な研究対象としてきた。その背景として、そうした分野は論理学などのツールを使った分析が行いやすいといった理由が考えられる。しかし、近年になって観察科学や社会科学など、厳密な測定の難しい非厳密科学にも科学哲学の分析が及ぶようになってきた。この演習ではMarcel Boumansの『ラボの外の科学：フィールド科学と経済学における測定』を手がかりに、フィールド科学における測定はどういう問題に直面し、それをどう解決していけばいいのか、そのことについて科学哲学は何が言えるのか、を一緒に考察していきたい。</p>											
【到達目標】											
Boumansのフィールド科学における測定についての考え方を理解し、批判的に検討できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテキストを輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。 Boumans, M. (2015) Science Outside the Laboratory: Measurement in Field Science and Economics. Oxford University Press. 第4章までを主に読む。</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト15ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですすめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。</p> <p>課題についてのフィードバック方法は授業内で説明します。</p>											
【履修要件】											
特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。 発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうか評価基準になる。</p>											
【教科書】											
「授業計画と内容」で挙げた書籍から授業に使用する部分を配布											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系10

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		文化進化論の現在									
【授業の概要・目的】											
ロバート・ボイドはピーター・リチャードソンとの共同研究による「二重継承説」で知られる人類学者である。これは人類進化（とりわけ協力行動の進化）において生物学的進化と文化的進化の相互作用が重要な役割を果たしてきたという立場である。今回の演習では、ボイドの講義と数人の論者によるボイドへのコメントを集めた『異なる種類の動物：文化はいかに人類を変えてきたか』を手がかりに、文化進化論の現在について考える。											
【到達目標】											
ボイドの文化進化についての考え方と、それに対するコメントを理解し、批判的に検討できるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下のテキストを輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。 Boyd, R. et. al (2018) A Different Kind of Animal: How Culture Transformed Our Species. Princeton University Press. ボイドによる第一章とコメンテーターによる第三章-第五章を中心に読む。											
基本的に一回の授業でテキスト15ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですすめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。											
課題についてのフィードバック方法は授業内で説明します。											
【履修要件】											
特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。 発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかが評価基準になる。											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

**[教科書]**

「授業計画と内容」で挙げた著作から使用する部分を授業内で配布

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系11

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		論理学 1									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の最終的な目標は、受講者が論理的で明晰な思考に慣れ、何かを主張する際にはその主張がどのような根拠に基づいているかを明確化し、抜けも漏れもない論証ができるようになることである。そのための練習の題材としては、哲学的論理学、そのなかでも「論理とは何か」という問題を取りあげる。我々は日常、推論を行い、そして「論理的」という言葉をよく使う。もちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。</p> <p>本演習では、数学における定理の証明がシミュレートできる、「論理」と呼ばれうるような、記号を処理する体系（「形式的体系」）を紹介する。具体的には、最小述語論理の自然演繹の体系の解説と問題演習を行う。</p>											
【到達目標】											
<p>最小述語論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。このことを通し、形式的体系における演繹がどのように進むのかを理解し、同時に日常的な推論がどのように形式的体系においてシミュレートされるのかを理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>最小述語論理は、論理結合子の導入規則と除去規則のみを持つ、基本的な論理体系の一つである。前期の前半は、まず最小述語論理の自然演繹の体系を紹介する。問題演習を通じ、各自が自然演繹の証明が出来るようになることが目標である。また、後半には、最小論理上で算術の体系「最小算術Q」を例に、数学における多くの証明が最小論理で遂行可能であることを示す。同時に、原始再帰法など計算の基本概念を紹介する。</p> <p>具体的な授業計画は以下の通り。</p> <p>論理学とは何をする学問か  形式言語  最小命題論理の -導入規則および除去規則  最小命題論理の 、 -導入規則および除去規則  最小命題論理の問題演習  遠回りのない証明  量子子と最小述語論理  最小述語論理の -導入規則及び除去規則  最小述語論理の -導入規則及び除去規則  最小述語論理の問題演習  形式的な自然数論  原始再帰的関数と"<math>2+2=4</math>"の証明  再帰関数の数値的表現可能性  総合演習  形式的な論理学と言語の哲学</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

## 科学哲学科学史(演習)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う。

### 【教科書】

使用しない  
毎回ハンドアウトを配布する。

### 【参考書等】

(参考書)

戸次大介 『数理論理学』(東大出版会)

小野寛晰 『情報科学における論理』(日本評論社)

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』

(関連URL)

[http://d.hatena.ne.jp/kyoto\\_logic](http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic)(授業Blog: 休講等の連絡、ハンドアウト配布)

### 【授業外学習(予習・復習)等】

ハンドアウトなどの授業資料は毎回、事前(1日前まで)にwebsite(上記の授業Blog)にアップする。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

形式的な体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		論理学 2									
【授業の概要・目的】											
<p>我々は日常的に推論を行う。また「論理的」という言葉をよく使う。哲学においてももちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。また「論理」とはいったい何かという問題は、現代の大きな問題である。というのも、20世紀以降古典論理の体系以外にも多くの異なる論理体系が提案されているからである。それらの非古典的な体系が論理と呼ばれるなら、ある体系が「論理」と呼ばれるためには、どんな性質を満たしていることが必要だろうか。</p> <p>本演習では、最小述語論理の自然演繹の体系の解説から始め、最小論理・直観主義論理・古典論理での論理式の証明とそのモデルを使った議論が出来るようにすることを目的とする。その中で、単なる記号の処理を行なう体系が「論理」と呼ばれるにはどんな性質を満たす必要があるかを考察する。</p>											
【到達目標】											
直観主義論理と古典論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。また、古典論理の完全性定理の証明を理解し、モデル論的意味論の意義を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>前半では、前期に紹介した最小述語論理を例にとり、論理結合子の意味とは何かを、「証明論的意味論」と呼ばれる立場から考察する。具体的には、ベルナップの「トンク」の例を題材に、論理結合子の条件とは何かを考え、保存拡大性や証明の正規化といった論理学の基本概念を理解することを目指す。後半では、最小論理に論理規則を付加し拡張した論理体系を紹介する。つまり、最小論理に矛盾律、排中律と論理規則を加え、直観主義論理、古典論理の体系を得る。これらの例により、論理規則が加わるにつれて、論理式の証明は難しくなるものの、そのモデルは簡単になることを示す。また、その考察により、健全性や完全性といった記号とモデルの関係に関する基本概念の理解を目指す。</p> <p>最後に、論理学の話題として、ゲーデルの不完全性定理等も紹介する。</p>											
<p>具体的な授業計画は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論理結合子の意味とは何か、意味の理論1と意味の理論2</li> <li>意味の理論2と論理結合子の条件：プライアーの「トンク」、ベルナップの保存拡大性</li> <li>プラヴィッツの「反転原理」</li> <li>ダメットと証明の正規化可能性</li> <li>「ホームズ論法」と矛盾律、直観主義論理</li> <li>直観主義論理の問題演習</li> <li>排中律と古典論理</li> <li>古典論理における証明・問題演習</li> <li>古典論理と真理表</li> <li>古典論理と完全性定理</li> </ul>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

## 科学哲学科学史(演習)(2)

完全性定理の証明

総合演習

(エクストラ課題)ゲーデルの不完全性定理

(エクストラ課題)ゲーデルの不完全性定理の証明

(エクストラ課題)不完全性定理の意義

### 【履修要件】

前期の演習「論理学1」を履修すること

### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う

### 【教科書】

使用しない

毎回ハンドアウトを配布する。

### 【参考書等】

(参考書)

戸次大介 『数理論理学』(東大出版会)

小野寛晰 『情報科学における論理』(日本評論社)

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』

(関連URL)

[http://d.hatena.ne.jp/kyoto\\_logic/](http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic/)(授業Blog: 休講等の連絡、ハンドアウト配布)

### 【授業外学習(予習・復習)等】

授業資料は毎回、事前(1日前まで)にwebsite(授業Blog)にアップします。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

形式的体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系13

科目ナンバリング		G-LET32 7M383 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊藤 和行 文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		科学哲学科学史セミナー									
[授業の概要・目的]											
科学史および科学哲学における，近年の研究動向を理解するとともに，修士論文の作成に必要な基礎的な力を養う．また関連する研究会や学会での発表に向けて，日本語および英語での発表の技量を磨くとともに，研究会誌や学会誌への投稿へ向けて執筆に必要な基礎力を養う．											
[到達目標]											
論文作成のための基礎的な力を身につける．											
[授業計画と内容]											
授業に出席する各院生の研究状況を発表してもらい，研究テーマの設定，先行研究についての理解状況などについて個別に指導を行う． 研究会や学会の発表に備えてそのシミュレーションを行ってもらい，各自のプレゼンテーション技法について指導を行う． 発表順や具体的な発表課題・内容等については，出席学生と担当教員とで相談をして決める．											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（出席および発表等）によって評価する．											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） なし											
[授業外学習（予習・復習）等]											
発表担当時の準備，その他授業外作業がある場合は適宜指示する．											
（その他（オフィスアワー等））											
特になし  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 現代文化学系14

科目ナンバリング		G-LET32 7M383 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊藤 和行 文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		科学哲学科学史セミナー									
[授業の概要・目的]											
科学史および科学哲学における，近年の研究動向を理解するとともに，修士論文の作成に必要な基礎的な力を養う．また関連する研究会や学会での発表に向けて，日本語および英語での発表の技量を磨くとともに，研究会誌や学会誌への投稿へ向けて執筆に必要な基礎力を養う．											
[到達目標]											
論文作成のための基礎的な力を身につける．											
[授業計画と内容]											
授業に出席する各院生の研究状況を発表してもらい，研究テーマの設定，先行研究についての理解状況などについて個別に指導を行う． 研究会や学会の発表に備えてそのシミュレーションを行ってもらい，各自のプレゼンテーション技法について指導を行う． 発表順や具体的な発表課題・内容等については，出席学生と担当教員とで相談をして決める．											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（出席および発表等）によって評価する．											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） なし											
[授業外学習（予習・復習）等]											
発表担当時の準備，その他授業外作業がある場合は適宜指示する．											
（その他（オフィスアワー等））											
特になし  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 現代文化学系15

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永原 陽子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		南部アフリカ現代史の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>南部アフリカ（南アフリカおよび周辺諸国）の、アパルトヘイト体制崩壊以降の歴史を、背景となるそれ以前の時期の歴史を含めて、扱う。</p> <p>南部アフリカ諸地域は、第二次世界大戦後にアパルトヘイト体制を本格化させた南アフリカを中心に、世界が脱植民地する時期に、いわばそれに逆行するかのよう、植民地主義と人種主義のさらなる激化を経験した。1990年代以降、その体制が崩壊し、現在に至るまで、大きな社会変動が生まれている。その変動の中で当該社会がどのような課題に直面し、それらをどのように乗り越えようとしているのかを多面的に取り上げる。それを通じて、植民地主義とアパルトヘイトとはどのようなものであったかを考え、さらには、ポストコロニアリズムとコロニアリズムとの関係に考察を及ぼせる。</p> <p>以上のような南部アフリカ社会の検討は、世界各地での脱植民地化や、紛争後社会の体制移行の問題についての理解をも深めることに通ずるだろう。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・南部アフリカのアパルトヘイト体制とその前史としての植民地主義について、基本的な事実を理解する。</li> <li>・1990年代以降の南部アフリカ社会の変動にかんする基本的事実、人々の抱えている課題とその克服の試みについて、世界史の中に位置づけて理解する。</li> <li>・南部アフリカ社会の変動についての理解を通じて、現代世界の抱える基本的な問題としての帝国主義と脱植民地化についての理解を深め、「現代」を考察する視座を得る。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
以下の項目を扱う。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 序論 南部アフリカの現代から世界の現代史を考える</li> <li>2 前史 植民地主義とアパルトヘイト</li> <li>3 アパルトヘイト体制の崩壊</li> <li>4 ANCとネルソン・マンデラの思想</li> <li>5 新憲法</li> <li>6 真実和解委員会の活動</li> <li>7 真実和解委員会の残したもの</li> <li>8 土地改革の理念と構造</li> <li>9 土地改革の実際</li> <li>10 ネオリベラリズムと社会的公正</li> <li>11 伝統的権威と近代民主主義</li> <li>12 伝統的権威と伝統法</li> </ol>											
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

- 13 伝統とジェンダー  
14 「脱植民地化」をめぐる論争  
15 まとめとフィードバック

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

学期末の試験。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

授業中に適宜指示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系16

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 食をめぐる研究の方法</li> <li>2 明治大正期の食</li> <li>3 アジア太平洋戦争までの食</li> <li>4 戦後の食</li> <li>5 牛乳の歴史学</li> <li>6 品種改良の歴史学</li> <li>7 フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## メディア文化学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』  
藤原辰史 『給食の歴史』

( 関連URL )

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学習(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系17

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
1 食糧戦争としての第一次世界大戦											
2 有機農業の歴史											
3 毒ガスと農薬の歴史											
4 トラクターの歴史											
5 戦時期の農村女性たち											
6 食糧戦争としての第二次世界大戦											
7 フィードバック											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書）											
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。											
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』											
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』											
藤原辰史 『ナチスのキッチン』											
藤原辰史 『カブラの冬』											
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----											

## メディア文化学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』  
藤原辰史 『給食の歴史』

( 関連URL )

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

### [授業外学習(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 佐藤 卓己			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学概論									
[授業の概要・目的]											
<p>メディア論を中心に、現代社会における情報とコミュニケーションの変容を考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会学的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」</p> <p>マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>											
[到達目標]											
<p>メディア文化学の基本をなす比較メディア論の研究パラダイムがどのように形成されたかを理解しその視点から個別のメディアの歴史を吟味し、現代社会の合意形成システムを分析することができるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1-2回 メディア社会とは何か</p> <p>第3回 メディア史としてのコミュニケーション研究</p> <p>第4回 メディア都市の成立</p> <p>第5章 出版資本主義と近代精神</p> <p>第6回 大衆新聞の成立</p> <p>第7回 視覚人間の国民化</p> <p>第8回 宣伝のシステム化と動員のメディア</p> <p>第9回 ラジオとファシスト的公共性</p> <p>第10回 トーキー映画と総力戦体制</p> <p>第11回 テレビによるシステム統合</p> <p>第12回 情報化の未来史</p> <p>第13回 脱・情報社会へ</p> <p>第14回 総論・試験</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----											

## メディア文化学(特殊講義)(2)

### [履修要件]

メディアに関心があり、情報への感度が高いこと。

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

定期試験（80％）とコメントペーパーなど（20％）。定期試験の方式については、講義中に説明する。

### [教科書]

佐藤卓己『現代メディア史』（岩波テキストブックス）ISBN: 9784000289207（中国からの留学生は佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学経典教材中文版・ただし旧版の翻訳）北京大学出版社2004年を利用してよい。）

### [参考書等]

（参考書）

佐藤卓己『ファシスト的公共性 総力戦体制のメディア学』（岩波書店）ISBN:9784000612609（メディア学をより深く学びたい人のために。）

佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）ISBN: 9784000283229（メディア史＝メディア論の発想法について、参照のこと。）

佐藤卓己『メディア社会 現代を読み解く視点』（岩波新書）ISBN:9784004310228（『現代メディア史』のサブ・テキストとして一般向けに書かれたもの）

（関連URL）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>(メディア文化論研究室HP)

<https://satotakumi60.wixsite.com/mysite>(佐藤卓己研究室)

### [授業外学習（予習・復習）等]

テキスト『現代メディア史 新版』各章の第一節、第二節を読んで授業に出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

メディア文化学の初学者は、佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』（岩波新書）を、歴史学の初学者は、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）を事前に読んでおくことが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系19

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文化財と政治									
【授業の概要・目的】											
(授業の概要・目的) 2018年度後期に引き続き、「文化財と政治」の問題を考える。現代の文化財は、富岡製糸場などの近代化遺産の評価をめくって、あるいは「仁徳天皇陵古墳」の呼称で世界遺産登録されようとする陵墓問題などにみられるように、密接に政治と関わっている。 明治初期の神仏分離と美術品の海外流出に続き、1880年代には「伝統文化」保存の政策の中で、フェノロサや岡倉天心の文化財保護の活動がはじまる。立憲制の形成とともに帝室博物館、東京美術学校、文化財をめぐるジャンル・等級・時代区分が成立する。この間、国民に開かれた国宝・史跡・名勝・博物館などの文化財と、皇室に秘匿された御物・陵墓・離宮などの私的な財産の二つの文化財の体系が成立する。こうした日本の文化財の有り様を、近現代を通じて考えてゆきたい。前期においては、明治維新から明治期を中心に論じたい。											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「文化財と政治」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天皇制と文化財</li> <li>・ 日本的な文化の語り</li> <li>・ 明治維新と桜</li> <li>・ 近現代の桜</li> <li>・ 廃仏毀釈と文化財の破壊</li> <li>・ 古都奈良の明治維新</li> <li>・ 古都京都の明治維新</li> <li>・ 1880年代の古社寺や旧跡の保存</li> <li>・ 京都御所から京都御苑へ</li> <li>・ 明治維新と陵墓</li> <li>・ 正倉院御物の成立</li> <li>・ フェノロサ・岡倉天心の活動</li> <li>・ ボストン美術館と日本美術</li> <li>・ 臨時全国宝物調査、古社寺保存法</li> <li>・ 「日本美術史」と文化財保護</li> <li>・ 帝室博物館と古都奈良・京都</li> </ul>											
以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。											
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----											

## メディア文化学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。

### 【教科書】

プリントを配布する。

### 【参考書等】

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房)

高木博志 『近代天皇制と古都』(岩波書店)

### 【授業外学習(予習・復習)等】

京都において、「文化財と政治」に関わる巡見を希望者で行う。

### (その他(オフィスアワー等))

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系20

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		サッチャー時代のイギリス									
【授業の概要・目的】											
今年度の授業は昨年度後期の「サッチャリズム序説」の増補版である。イギリス現代史上の決定的な転換期といわれるサッチャー時代（1979～90年）はイギリス社会をいかに変え、その変化は今日のイギリスをいかに規定しているのか、経済、社会保障、労使関係、外交、といった主要な政策領域に加え、サッチャーが折に触れて強調したモラルの改革をも視野に収めて検討することが主たる課題となる。											
【到達目標】											
サッチャリズムの時代がいかなる意味でイギリス現代史上の転換期であったか、第二次世界大戦から今日に至る長いパースペクティブの中で把握する能力を身に着けること。											
【授業計画と内容】											
(1)マーガレット・サッチャーの形成（1回） (2)「コンセンサス」批判（1回） (3)モラルの改革（2回） (4)経済政策（2回） (5)労使関係（2回） (6)福祉国家の解体？（2回） (7)アメリカとヨーロッパ（2回） (8)権威主義的リーダーシップ（1回） (9)サッチャー以降のサッチャリズム（1回） (10)総括（1回）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポートによる評価を基本とする。											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----											

## メディア文化学(特殊講義)(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学習(予習・復習)等]

以下の文献を参照すること。

オーウェン・ジョーンズ(依田卓巳訳)『チャヴ：弱者を敵視する社会』海と月社、2017年。  
セリーナ・トッド(近藤康裕訳)『ザ・ピープル：イギリス労働者階級の盛衰』みすず書房、2016年。  
ピーター・クラーク(西沢保ほか訳)『イギリス現代史、1900 - 2000』名古屋大学出版会、2004年。  
長谷川貴彦『イギリス現代史』岩波新書、2017年。

### (その他(オフィスアワー等))

通年の受講が望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系21

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文化財と政治									
【授業の概要・目的】											
(授業の概要・目的) 2018年度後期に引き続き、「文化財と政治」の問題を考える。現代の文化財は、富岡製糸場などの近代化遺産の評価をめくって、あるいは「仁徳天皇陵古墳」の呼称で世界遺産登録されようとする陵墓問題などにみられるように、密接に政治と関わっている。 明治初期の神仏分離と美術品の海外流出に続き、1880年代には「伝統文化」保存の政策の中で、フェノロサや岡倉天心の文化財保護の活動がはじまる。立憲制の形成とともに帝室博物館、東京美術学校、文化財をめぐるジャンル・等級・時代区分が成立する。この間、国民に開かれた国宝・史跡・名勝・博物館などの文化財と、皇室に秘匿された御物・陵墓・離宮などの私的な財産の二つの文化財の体系が成立する。こうした日本の文化財の有り様を、近現代を通じて考えてゆきたい。後期においては、20世紀を中心に論じたい。											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「文化財と政治」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
(授業計画と内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天皇制と文化財</li> <li>・ 史蹟名勝天然記念物と20世紀の文化財行政</li> <li>・ 吉野山・奈良公園の近現代</li> <li>・ 嵐山・嵯峨の近現代</li> <li>・ 神苑の形成（伊勢神宮・明治神宮・橿原神宮）</li> <li>・ 黒板勝美とハイマートシュツ（郷土色保存）</li> <li>・ 帝国における文化財</li> <li>・ 近現代の陵墓</li> <li>・ 国民道徳と南朝史蹟・赤穂浪士の史蹟</li> <li>・ 内務省と国立公園</li> <li>・ 国宝保存法と文部省の文化財行政</li> <li>・ 紀元2600年事業と神武天皇聖蹟調査</li> <li>・ 伝説・物語と文化財</li> <li>・ 戦後改革と文化財の誕生</li> <li>・ 世界遺産と日本の文化財保護法</li> <li>・ 近代化遺産と陵墓の世界遺産登録問題</li> </ul> <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房)

今尾文昭・高木博志編 『世界遺産と天皇陵古墳を問う』(思文閣出版)

**[授業外学習(予習・復習)等]**

奈良において、「文化財と政治」に関わる巡見を希望者で行う。

**(その他(オフィスアワー等))**

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系22

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イギリスの1960年代									
【授業の概要・目的】											
<p>「スウィング・シクスティーズ」などとも評されるイギリスの1960年代は、ビートルズとミニ・スカートが象徴的なアイテムとなるように、文化革命が花開いた時代として知られる。「豊かな社会」の到来を前提に、若者の台頭と性的解放が進み、広範囲にわたる芸術的革新が実現されて、イギリスは世界的な注目を集める存在となった。しかし、秩序と権威の崩壊が始まり、道徳的な相対主義がもてはやされた時代として、1960年代をネガティブに把握する議論も根強い。この授業では、1960年代のさまざまな動向の中に後のサッチャリズムの歴史的前提を見出すことを試みる。</p>											
【到達目標】											
イギリスの1960年代を、国際的な動向も視野に収めながら、現代史の大きな流れの中で把握する能力を身に着けること。											
【授業計画と内容】											
(1)さまざまな1960年代論（1回） (2)「豊かな社会」という前提（1回） (3)若者の台頭（1回） (4)文化革命の諸相（音楽、ファッション、映画、アート、ドラッグ、等）（2回） (5)ビートルズとロックの覇権（2回） (6)「許容する社会」の到来（1回） (7)性的解放（1回） (8)1968年（1回） (9)人種問題（1回） (10)モラリズムの反撃（2回） (11)二大政党の1960年代（1回） (12)総括（1回）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポートによる評価を基本とする。											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## メディア文化学(特殊講義)(2)

### [教科書]

使用しない  
プリントを配布する。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学習(予習・復習)等]

以下の文献を参照すること。

長谷川貴彦『イギリス現代史』岩波新書、2017年。  
セリーナ・トッド(近藤康裕訳)『ザ・ピープル：イギリス労働者階級の盛衰』みすず書房、2016年。  
ピーター・クラーク(西沢保ほか訳)『イギリス現代史、1900 - 2000』名古屋大学出版会、2004年。

### (その他(オフィスアワー等))

通年の受講が望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系23

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 教授 西山 伸			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代日本大学史									
【授業の概要・目的】											
本講義では、1950年代から現在までの日本の大学の歴史を主な対象とする。現在の大学制度のもととなった戦後改革を踏まえ、高度経済成長、大学紛争、そして近年の大学改革までの時期における大学について、資料にもとづき実証的に検証する。その上で、戦後日本にとって大学はどのような役割を果たしてきたのか、現在の大学が歴史的にどのように形成されたのか、などについて考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後改革から現在に至る大学の形成と展開を資料にもとづき理解する。</li> <li>・現代日本社会における大学の役割について歴史的視点に立って考察する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
第1回	ガイダンス										
第2回	戦後高等教育改革										
第3回	1950年代の大学と学生										
第4回	高度経済成長期の大学										
第5回	戦後学生運動の展開										
第6回	大学紛争(1)										
第7回	大学紛争(2)										
第8回	大学紛争(3)										
第9回	高等教育の計画的整備										
第10回	大学紛争後の学生										
第11回	規制緩和路線と大学改革の開始										
第12回	大学改革の展開										
第13回	国立大学法人化										
第14回	現在の大学										
第15回	まとめ(フィードバック)										
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>評価方法：毎回の授業時に提出されるコメントとレポート試験の成績により評価する。</p> <p>評価基準：授業の内容を理解した上で、受講者独自の見解を示すこと。</p>											
【教科書】											
使用しない											
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

授業で指定する文献・史料等に予習・復習として目を通しておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系24

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花									
[授業の概要・目的]											
<p>泉鏡花は明治から昭和に涉って活躍した作家である。この授業では、主に前近代の文学や伝説に取材した作品を中心にモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を目指す。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。なお、後期の履修を推奨する。</p>											
[到達目標]											
<p>泉鏡花に関する研究内容の把握が出来ること、従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。他の受講生の多様な意見を受け入れ、適宜意見交換をしながらさらに自分の論点を深められること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>泉鏡花の研究において受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶべく、適宜講義内容に関する質問、意見、感想などを書いて貰う。教員は、それを踏まえて補足する。</p> <p>学生は、教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見を用紙に記入し、授業の際に提出する。</p> <p>全体の授業内容を踏まえて受講生各自でレポートを書く。なお、理解の程度にあわせて進度や内容を調整することがある。</p> <p>第1回 ガイダンス。泉鏡花の生涯と作品  第2回 『利根川凶志』と「通ひ路」「龍胆と撫子」、『雨月物語』と「七本桜」「妖僧記」、『児雷也豪傑譚』と「龍胆と撫子」「黒百合」  第3回 「大晦日曙草紙」と「絵本の春」、「新著聞集」と「尼ヶ紅」、「老媪茶話」と「眉かくしの霊」  第4回 「想山著聞奇集」と「星女郎」「駒の話」、「三州奇談」「三州奇談後編」と「絵本の春」「山海評判記」  第5回 『甲越軍記』と「戦国新茶漬」、『南総里見八犬伝』と「五の君」、『邯鄲諸国物語』と「伊勢之巻」  第6回 『十方庵遊歴雑記』と「江戸土産」「新江戸土産」  第7回 『十方庵遊歴雑記』と「鯛」「入子話」、『日暮硯』と「十万石」  第8回 発想・話型の類縁性  第9回 縄ヶ池龍女伝説と「蓑谷」「龍潭譚」、双六谷盤の石伝説と『神鑿』  第10回 金沢松月寺の桜伝説と「桜心中」、おおわた伝説と「斧琴菊」  第11回 鷺伝説と「鷺の灯」「青鷺」、昔話「物食う魚」と「鰻」  第12回 「マヨイガ」と「毘首羯摩」、「呼名の怪」と「龍胆と撫子」「隣の糸」  第13回 上記作品に関する補足説明、レポート作成の注意  第14回 レポート講評  第15回 フィードバック</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

質問・意見等の表明 4 割、レポート 6 割。

**[教科書]**

プリントを配布することがある。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見等を用紙に記入し、授業の際に提出する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系25

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花は明治から昭和に涉って活躍した作家である。この授業では、主に前近代や伝説を素材とした作品を中心にモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を目指す。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。なお、前期の履修を推奨する。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花に関する研究内容の把握が出来ること、従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。他の受講生の多様な意見を受け入れ、適宜意見交換をしながらさらに自分の論点を深められること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>泉鏡花の研究において受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶべく、適宜質問、意見、感想などを書いて貰う。教員は、それを踏まえて補足する。</p> <p>学生は、教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見を用紙に記入し、授業の際に提出する。</p> <p>全体の授業内容を踏まえて受講生各自でレポートを書く。なお、理解の程度にあわせて進度や内容を調整することがある。</p>											
<p>第1回 ガイダンス。泉鏡花の生涯と作品</p> <p>第2回 猫嶽と「雪柳」、「目一つの怪」と「龍胆と撫子」続篇等</p> <p>第3回 知友からの伝聞、車前草と「幻往来」、喜多村緑郎と「霊象」、「お忍び」</p> <p>第4回 楠木照と「浅茅生」</p> <p>第5回 岩永端と「海異記」</p> <p>第6回 『釈迦八相倭文庫』と『神鑿』、『三虫拇拳』と「天守物語」</p> <p>第7回 『折々草』と「二三羽 十二、三羽」</p> <p>第8回 「春昼」「春昼後刻」と古典：作品前半を読む</p> <p>第9回 「春昼」「春昼後刻」と古典：作品中盤を読む</p> <p>第10回 「春昼」「春昼後刻」と古典：作品後半を読む</p> <p>第11回 「三枚続」と「わかれ道」</p> <p>第12回 「式部小路」と「わかれ道」</p> <p>第13回 上記作品に関する補足説明、レポート作成の注意</p> <p>第14回 レポート講評</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点及び達成度】**

質問・意見等の表明 4 割、レポート 6 割。

**【教科書】**

使用しない  
プリントを配布することがある。

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学習(予習・復習)等】**

教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見等を用紙に記入し、授業の際に提出する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 文学部 教授 庵道 由香			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮近現代史の諸問題									
[授業の概要・目的]											
<p>本講義では、朝鮮半島の近現代史について、特に朝鮮半島と日本との間に生じている歴史葛藤の問題を、具体的な課題ごとにその研究状況や現状と問題点について史料に即して学ぶことを目的とします。</p> <p>近年、東アジアでの人の移動や文化交流が急速に拡大する一方で、日本と韓国・朝鮮・中国との歴史問題をめぐる葛藤が深刻化しています。日本の朝鮮半島植民地支配や中国侵略の歴史に端を発するこの問題は、今後東アジアに関心を持ち学ぼうとする学生にとっては、いずれ直面しなければならない問題でもあります。何が問題になっているのか、事実関係はどうなのか、問題の本質は何かを、史料と研究に即して学び、それをもとに今後どのように解決していくべきなのかを、今後の東アジア関係のあり方とともに共に考えてゆきたいと思います。</p>											
[到達目標]											
<p>朝鮮近現代史の諸問題や研究状況を理解する。 東アジアの歴史葛藤問題について理解し、自分なりの意見を述べることができる。 歴史問題に関わる論点について、事実や資料に即して説明できる。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．講義概要(講義の進め方、成績評価、自己紹介など)および概論</li> <li>2．日本と朝鮮半島の歴史葛藤問題を考える</li> <li>3．戦後日韓関係の展開 1：日韓相互認識の変遷</li> <li>4．戦後日韓関係の展開 2：日韓交渉と日韓条約</li> <li>5．戦後日韓関係の展開 3：戦後補償問題の進展</li> <li>6．労働力・兵力強制動員問題 1：動員政策の展開と朝鮮社会</li> <li>7．労働力・兵力強制動員問題 2：日本における地域運動</li> <li>8．労働力・兵力強制動員問題 3：韓国における戦後補償運動の展開</li> <li>9．労働力・兵力強制動員問題 4：戦後補償裁判</li> <li>10．労働力・兵力強制動員問題 5：近年の状況・まとめ</li> <li>11．日本軍「慰安婦」問題 1：「慰安所」制度の構造</li> <li>12．日本軍「慰安婦」問題 2：「慰安婦」制度の実態</li> <li>13．日本軍「慰安婦」問題 3：「慰安婦」運動の展開</li> <li>14．教科書問題</li> <li>15．まとめ</li> </ol> <p>講義の進行状況や、受講生の関心によって、講義内容を変更することもあります。</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## メディア文化学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点(40点)： コミュニケーションペーパー提出、質疑応答などの参加態度などを総合的に評価する。

レポート(60点)： 講義内で取り扱ったテーマ・人物・事件などの中で関心のあるものを一つ選び、レポートを提出すること。2000字以上とし、論文・書籍などの参考文献を必ず3つ以上利用すること。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学習(予習・復習)等】

講義中に提示する参考文献や資料を、各自の関心に従い読んでください。

### (その他(オフィスアワー等))

状況に応じて、講義内でグループ討論も考えています。積極的な授業参加を期待しています。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング																															
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		経営管理大学院 特命教授 石尾 和哉																							
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語																				
題目		戦後日本経済史 ～ カルチャー研究のプラットフォームとして ～																													
【授業の概要・目的】																															
<p>日本の第二次大戦後の経済史を概観することで、各時代の大衆文化の背景を理解するための素養を身に付けることを目的とする。</p> <p>経済変動は所得増減や失業率などへの影響を通じて、人々のマインドに影響を与える。それが大衆文化に大なり小なり影響を与えているものと考えられる。</p> <p>各時代の出来事や空気感と共に立体的に経済的背景を理解し感じて頂くことで、カルチャー研究の一助として頂きたい。</p>																															
【到達目標】																															
<p>戦後日本経済史が包括的に理解できます。</p> <p>また経済変動のメカニズムの概略が理解できるようになります。</p> <p>各時代のポップカルチャー、大衆文化の背景にどのような経済状況があったのかが理解できることから、経済状況の背景を踏まえたカルチャー研究という視点を加味することが可能となります。</p>																															
【授業計画と内容】																															
<p>概ね、時代区分毎に各回独立的に講ずる。</p> <p>経済史を概観した後、各時代の代表的なカルチャーや商品を紹介し、経済情勢がどのように大衆文化に影響を与えたのかを考察する。</p> <p>(授業の進捗によっては各回の内容が変わる場合がある)</p>																															
<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>戦後経済史概観</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>戦中～戦後復興期</td> </tr> <tr> <td>第4・5回</td> <td>高度成長期の経済、カルチャー、商品</td> </tr> <tr> <td>第6・7回</td> <td>安定成長期の経済、カルチャー、商品</td> </tr> <tr> <td>第8・9回</td> <td>バブル期の経済、カルチャー、商品</td> </tr> <tr> <td>第10・11回</td> <td>経済停滞期の経済、カルチャー、商品</td> </tr> <tr> <td>第12・13回</td> <td>小泉改革と反動期の経済、カルチャー、商品</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>アベノミクス時代の経済、カルチャー、商品</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>全体まとめ</td> </tr> </table>												第1回	オリエンテーション	第2回	戦後経済史概観	第3回	戦中～戦後復興期	第4・5回	高度成長期の経済、カルチャー、商品	第6・7回	安定成長期の経済、カルチャー、商品	第8・9回	バブル期の経済、カルチャー、商品	第10・11回	経済停滞期の経済、カルチャー、商品	第12・13回	小泉改革と反動期の経済、カルチャー、商品	第14回	アベノミクス時代の経済、カルチャー、商品	第15回	全体まとめ
第1回	オリエンテーション																														
第2回	戦後経済史概観																														
第3回	戦中～戦後復興期																														
第4・5回	高度成長期の経済、カルチャー、商品																														
第6・7回	安定成長期の経済、カルチャー、商品																														
第8・9回	バブル期の経済、カルチャー、商品																														
第10・11回	経済停滞期の経済、カルチャー、商品																														
第12・13回	小泉改革と反動期の経済、カルチャー、商品																														
第14回	アベノミクス時代の経済、カルチャー、商品																														
第15回	全体まとめ																														
【履修要件】																															
特になし																															
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----																															

## メディア文化学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

授業における質問、コメント等による参加（４０％）  
最終レポート（６０％）

### [教科書]

使用しない  
レジュメを毎回kulasisにアップします。  
受講者はそれを各自出力して出席下さい。

### [参考書等]

（参考書）  
（参考書）  
八代尚宏『日本経済論・入門』（有斐閣）ISBN:978-4641164116（コンパクトに戦後日本経済史が概観できる）  
野口悠紀雄『戦後日本経済史』（新潮選書）ISBN:978-4-10-603596-8（戦後経済政策の立案者側の情報が得られる）

### [授業外学習（予習・復習）等]

自身の研究テーマを明確にして、各回の授業内容を元に、自分のテーマに関する考察を深めていく材料として活用して頂きたい。

### （その他（オフィスアワー等））

面談が必要な場合にはメールで予約を行ってください。

講師はシンクタンク等で経営コンサルティング活動を行いつつ、経営学研究、カルチャー研究を行っています。

二十世紀学専修卒業、京都大学博士(経済学)。  
現在京都大学経営管理大学院特命教授を兼任しています（サービス経営論）。

授業に関する質問・意見、あるいは市場経済、企業経営に関する質問など、メール等でお寄せ頂くことを歓迎します。

ishio.kazuya.35m@st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学 総合情報学部 教授 研谷 紀夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「場所の記憶」とデジタルヘリテージ ビジュアル資料が担う記憶の想起とその継承									
【授業の概要・目的】											
<p>歴史的な事象と関係する場所や空間にはその出来事に関する記憶と記録が様々なかたちで伝わっています。それは博物館、図書館、文書館、資料館、記念碑などの形として遺されているものもあれば、式典・儀礼や語り伝えなど、固定されていない形としても伝わっています。そして現代はそれらの記憶や記録が「デジタルヘリテージ」とよばれるようなインターネット上のコンテンツとして遺されるようになってきています。</p> <p>本講義では歴史的出来事や文化的な事象と関わり合いを持つ場所の中で、ある種の権威や尊厳を保ちながら、非日常的なスペクタクルを形成している場所や空間をとりあげていきます。そして、これらの場所や空間においては、どのような形で歴史や文化に関する記憶や記録が遺され、さらにサイバースペース上においては、映像や写真などのビジュアル資料を用いてどのようにその記録が伝えられているかを考察します。そのことによって特定の場所にまつわる記憶と記録が時空間を越えてどのように継承されていくかについて考えを深めていきます。</p> <p>具体的には、本講義で扱う内容は3つの大きなテーマで構成されますが、まず第1部では近代国家が首都の中心に設立した代表的MUSEUM、LIBRARY、ARCHIVEを題材とし、次の第2部では「負の記憶」と呼ばれる戦争や事故、自然災害などが起きた場所をとりあげます。そして第3部では日本の歴史や文化と関係する場所や空間について考察を進めます。</p>											
【到達目標】											
<p>世界にある様々な「場所」と「記憶や記録」の関係を理解するとともに、それらに関する写真や映像に関する資料がインターネット上で公開されている現状を捉えます。その上でそれらが社会の記録と記憶の継承にどのような役割を果たしていくかについての考えを深めることを目標とします。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第01講：イントロダクション  第02講：ルーヴルにみる「王家と国家の記憶」とデジタルヘリテージ  第03講：大英図書館と米国議会図書館の拡大にみる知識の標準化  第04講：米国国立公文書館とウィキリークスの対比にみるグローバル社会と記録のありか  第05講：震災をめぐる神戸と東北の記憶と記録の異同  第06講：911テロとニューヨーククロワータウンの復興記録  第07講：広島原爆をめぐる記憶と記録の葛藤</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## メディア文化学(特殊講義)(2)

第08講：中間のまとめ

第09講：戦争をめぐる世界の映像アーカイブと記録映像の編纂-NHK「映像の世紀」を中心に-

第10講：劇映画の中のアウシュヴィッツ像

第11講：ジュネーブと難民・移民の記憶と記録/チェルノブイリと福島における原発事故をめぐる記憶と記録

第12講：近代天皇像の形成にみる場所と空間の記憶-宮内公文書館のデジタルヘリテージを中心に-

第13講：日本武道館の文化社会史

第14講：地図にみる文化と都市の情報化（ぴあmapからGoogleMapへ）

第15講：まとめ

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

- ・出席（50点）と授業でのコメントシートやレポート（50点）により評価する。
- ・レポートについては毎回関連するネット上のデジタルヘリテージを閲覧しワード1枚程度にまとめる課題が出される。
- ・4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。
- ・独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）

研谷紀夫『デジタルアーカイブにおける「資料基盤」統合化モデルの研究』（勉誠出版）ISBN:4585104429

ピーターバーク『時代の目撃者 資料としての視覚イメージを利用した歴史研究』（中央公論美術出版）ISBN:4805505486

竹沢尚一郎『ミュージアムと負の記憶 戦争・公害・疾病・災害:人類の負の記憶をどう展示するか』（東信堂）ISBN:2015

ピエール・ノラ、谷川稔（監訳）『記憶の場 フランス国民意識の文化=社会史』（岩波書店）ISBN:4000225197

### [授業外学習（予習・復習）等]

あらかじめ示した内容について予習し、授業後に課題が提示された場合は提出すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系29

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 伝統中国									
【授業の概要・目的】											
グローバル化が進展する現在、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割はますます大きくなっている。例えば、企業がある地域に進出する場合、現地の言語・事情に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わるであろう。本講義は、こうした仲介者の意義について、伝統中国（主として19世紀中葉まで）における事例を中心に、中国経済の歴史的展開をふまえて考察してみたい。											
【到達目標】											
前近代における中国経済の展開を把握したうえで、伝統中国における仲介者の役割について理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 古代中国経済と商業</li> <li>3. 隋唐帝国経済と商業</li> <li>4. 宋代商業の発展と仲介者</li> <li>5. モンゴル時代のユーラシア商業</li> <li>6. 明代経済の展開と牙行（1）</li> <li>7. 明代経済の展開と牙行（2）</li> <li>8. 東アジア海域交流と仲介者</li> <li>9. 倭寇的状况と仲介地（1）</li> <li>10. 倭寇的状况と仲介地（2）</li> <li>11. 明清交替期の海域世界と仲介者</li> <li>12. 清代海上貿易の展開と仲介者</li> <li>13. 海域近代の始まりと仲介者</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
前期・後期ともに履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。											
----- メディア文化学(特殊講義) (2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系30

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 近現代中国									
【授業の概要・目的】											
グローバル化が進展する現在、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割はますます大きくなっている。例えば、企業がある地域に進出する場合、現地の言語・事情に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わるであろう。本講義はこうした仲介者の意義について、近現代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者や現在の仲介者と比較してみたい。											
【到達目標】											
近現代における仲介者の役割を把握したうえで、前近代や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. アヘン貿易と仲介者</li> <li>3. 開港場貿易：外国人商人と買弁（1）</li> <li>4. 開港場貿易：外国人商人と買弁（2）</li> <li>5. 苦力貿易と客頭（1）</li> <li>6. 苦力貿易と客頭（2）</li> <li>7. 開港場貿易の発展と行棧（1）</li> <li>8. 開港場貿易の発展と行棧（2）</li> <li>9. 外国籍華人と在華外国領事の役割（1）</li> <li>10. 外国籍華人と在華外国領事の役割（2）</li> <li>11. 工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡</li> <li>12. 前近代東南アジア海域の仲介者</li> <li>13. 前近代地中海世界の仲介者</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
前期・後期ともに履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。											
----- メディア文化学(特殊講義) (2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系31

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 国際文化学研究科 教授 長 志珠絵			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「戦争」と文化をめぐる日本近現代史研究としての諸問題									
【授業の概要・目的】											
19-20世紀の近代国民国家は「国民」形成の中核に「戦争」をめぐる文化装置を必要とした。またこの問題は「国民」をめぐる文化政治と密接に関係するため、植民地支配や総力戦体制下での歴史的变化に着目する作業とともに、戦「後」への射程も必要となってくる。戦争認識をめぐる文化研究、社会史研究、ジェンダー研究などの方法論や、帝国と戦後を架橋する空襲・防空研究等、典型的な歴史事象に言及しながら、19世紀末から20世紀半ばにいたる戦争と文化をめぐる諸問題を考察する。											
【到達目標】											
日本近代における戦争と文化をめぐる研究上の成果や論点、史料状況について具体的な知識を獲得するとともに、歴史研究としての方法や分析視点を習得することで、近い過去の論争的課題についての考察力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
*2以下の各項目について2-3回に分けて論じる											
1 導入-戦争の想起と文化をめぐる研究動向 2 「国民化」の時代と「戦争」メディア 3 戦争記憶の展示と同時代教育 4 「国民」をめぐる境界の政治 5 防空言説と国民像の変容 6 戦後と戦争経験・戦争像・記録 フィードバックについては授業時に説明する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
コメント紙回答（複数回、合計50点）と定期試験またはレポート（50点）により評価する。											
----- メディア文化学(特殊講義) (2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

授業中に指示する  
適宜史料レジュメ等を配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

各自、授業中に指示した関連文献や配布史料等に目を通しておくこと

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系32

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 塩出 浩之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		新聞から考える日本・東アジアの近代									
【授業の概要・目的】											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアにおける新聞に関する史料・文献を読み、日本・東アジアの近代、特に公共圏の形成・変容について考える。											
【到達目標】											
新聞を研究対象として考察することを通じて、日本の近現代史を世界史の一部として捉える思考方法を身につけるとともに、日本近現代史研究における史料読解の基礎的な能力を養う。											
【授業計画と内容】											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアで発行された新聞を史料として読み、あわせてジャーナリストに関する史料や新聞の歴史に関する学術書や論文を読む（全15回）。参加者の報告および討論を主として進行する。											
フィードバックについては授業時に説明する。											
【履修要件】											
できるだけ、前期・後期を通して参加すること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
報告、討論への参加等の平常点およびレポートによって評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
授業で用いるテキスト・史料を必ず読了しておくこと。報告者以外も、質問などを準備して討論に参加することが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 現代文化学系33

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 塩出 浩之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		新聞から考える日本・東アジアの近代									
【授業の概要・目的】											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアにおける新聞に関する史料・文献を読み，日本・東アジアの近代，特に公共圏の変容について考える。											
【到達目標】											
新聞を研究対象として考察することを通じて，日本の近現代史を世界史の一部として捉える思考方法を身につけるとともに，日本近現代史研究における史料読解の基礎的な能力を養う。											
【授業計画と内容】											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアで発行された新聞を史料として読み，あわせてジャーナリストに関する史料や新聞の歴史に関する学術書や論文を読む（全15回）。参加者の報告および討論を主として進行する。											
フィードバックについては授業時に説明する。											
【履修要件】											
できるだけ、前期・後期を通して参加すること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
報告、討論への参加等の平常点およびレポートによって評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
授業で用いるテキスト・史料を必ず読了しておくこと。報告者以外も、質問などを準備して討論に参加することが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 現代文化学系34

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学グローバル地域文化学部 石井 香江 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「男らしさ」から読み解く現代史									
[授業の概要・目的]											
<p>「男性」に注目し、かつ男女双方のジェンダーを統合する問題構成を持つ男性史の展開は、女性学・男性学の展開、社会史・女性史・ジェンダー史の展開とも並行して1990年代に欧米で本格化する。その後、コンネルが提示した「男らしさ」の複数性という見方や、ブルデューのハビトゥス概念を援用ないし批判する様々なテーマや地域・時代を対象にした実証研究が蓄積されている。本講義では、以上の展開をおさえた後、「男らしさ」の核心をなす「闘い」・「暴力」（また、これらを支える「身体」）というテーマに主に着目し、ドイツ及び隣接する国々の現代史（「闘い」・「暴力」が全面化する戦争）で「男らしさ」が果たした役割と帰結について理解し、考察したい。</p>											
[到達目標]											
<p>(1) 「男らしさ」という概念と男性史の持つ意義を女性史・ジェンダー史と関連付けて理解する。</p> <p>(2) ドイツ及び隣接する国々の現代史、特に「闘い」・「暴力」が全面化する戦争のメカニズムを、「男らしさ」という概念を軸に、かつ具体的な文字・図像史料を読み解くことを通じて理解する。</p> <p>(3) 戦争における「男らしさ」の役割を理解することを通じて、現代社会のその他の個別の問題と、その背後に潜むジェンダー化された構造を探り当てる手がかりとする。</p>											
[授業計画と内容]											
各2～3回で以下のテーマについて学びます（全15回）。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 男らしさと名誉</li> <li>2. 身体の再発見</li> <li>3. 植民地状況における男らしさ</li> <li>4. 戦争と男らしさ</li> <li>5. 戦争とセクシュアリティ</li> <li>6. 戦後の男らしさの行方</li> </ol>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点 40点（受講生は毎回コメントシートを提出）とレポート 60点（受講生は授業に関連するテーマの課題に対し、自分で調べた上で批評を書き、提出する）で評価する。											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## メディア文化学(特殊講義)(2)

### [教科書]

授業中に配布するレジユメと資料の他、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

### [参考書等]

(参考書)

A・コルバン / J・J・クルティーヌ / G・ヴィガレロ監修 『男らしさの歴史 男らしさの危機？ 20 - 21世紀』(藤原書店) ISBN:978-4-86578-131-1 (特に購入する必要はありません。)  
その他の参考文献については、授業中に適宜指示します。

### [授業外学習(予習・復習)等]

参考書も含めて、授業中に適宜指示します。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系35

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習Ⅰ) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉本 淑彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化の諸問題 A									
【授業の概要・目的】											
各自が、現代を中心に、メディア文化に関する研究文献（学術書ないし学術論文）を任意で選び、その内容を報告する。その後、全員によるディスカッションをおこなう。メディア文化の諸問題を幅広く学ぶことが目的である。											
【到達目標】											
既存の学術書・学術論文を読み込むことで、自身に取り組むべき研究テーマを発見する力を養う。											
【授業計画と内容】											
1回目：テーマの選び方、および、文献調査方法について講述する 2回目以降：各回とも、1名の受講生が、任意で選んだ文献について、著者の経歴、内容、評価、当該テーマの関連文献、について紹介する。そのうえで、全員によるディスカッションをおこなう。 最終回：フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（報告に応じた適切な発言内容、および発言頻度）による。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） なし											
【授業外学習（予習・復習）等】											
関心のあるテーマについて、既存の学術書・論文はどのようなアプローチをしているのだろうか。まず3～4点ほどの学術書・論文を熟読することからはじめて、アプローチの仕方を事前に考えよう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 現代文化学系36

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習Ⅰ) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉本 淑彦 関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化の諸問題 B									
【授業の概要・目的】											
各自が、現代を中心とするメディア文化に関するテーマを任意で選び、それについてのリサーチ結果を報告する。その後、全員によるディスカッションをおこなう。現代文化に関する研究テーマの幅広い学習と、研究論文執筆につながりうるテーマの選択眼涵養を目的とする。											
【到達目標】											
研究論文を書くには、研究状況と資料状況を踏まえて、自身を取りくみえる研究テーマを発見することが重要である。この授業では、そのような発見力を養う。											
【授業計画と内容】											
1 回目：テーマの選び方について講述する 2 回目以降：各回とも、1名の受講生が、任意で選んだテーマについて、研究意義、研究史の整理、論旨、関連文献を報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、報告の問題点を洗い出し、研究論文執筆のうえで今後取り組むべき課題を考える。 最終回：フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（報告に応じた適切な発言内容、および発言頻度）による。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） なし											
【授業外学習（予習・復習）等】											
関心のあるテーマについて、既存の学術書・論文はどのような資料を用いて論じているのだろうか。そのことに注意を払いながら、まず3～4点ほどの学術書・論文を熟読してみよう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 現代文化学系37

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党史資料選読									
[授業の概要・目的]											
中国現代史の史料一般についての基本的な知識を得たうえで、中国共産党史に関する中国語資料を精読する。中国共産党史に関する資料を読むことによって、中国革命に対する理解を深める。											
[到達目標]											
中国語資料・中国共産党史資料の扱い方、特徴などを理解し、中国現代史を研究するにあたっての史料の読解、操作能力の向上を図る。											
[授業計画と内容]											
中国共産党史関連資料のうち、『建党以来重要文献選編』から関連文献を選んで精読する。具体的には、党の諸会議で決議された文書、党中央から各組織に対して出された指示など、主として政治運動に関する文献を取り上げる。必要に応じてそれら文書の背景となるコミンテルン資料も読む。なお、史料の内容や背景を理解するには、一定の中国革命史・現代史にかんする全般的基礎知識が必要なので、講義形式の解説を必要に応じて加えることとする。 各回の計画としては、1～2回目の授業で史料について解説を行った後、3回目以降は担当者を決めて史料を読み進めていく予定である。											
[履修要件]											
現代中国語の資料をもちいるので、中国語についての理解力・読解力（第二外国語履修程度）が履修要件となる。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点											
[教科書]											
使用しない テキストはコピーして授業の際に配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
指定部分の日本語訳											
（その他（オフィスアワー等））											
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、十分な予習が必要である。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党史資料選読									
【授業の概要・目的】											
中国現代史の史料一般についての基本的な知識を得たうえで、中国共産党史に関する中国語資料を精読する。中国共産党史に関する資料を読むことによって、中国革命に対する理解を深める。											
【到達目標】											
中国語資料・中国共産党史資料の扱い方、特徴などを理解し、中国現代史を研究するにあたっての史料の読解、操作能力の向上を図る。											
【授業計画と内容】											
中国共産党史関連資料のうち、『建党以来重要文献選編』から関連文献を選んで精読する。具体的には、党の諸会議で決議された文書、党中央から各組織に対して出された指示など、主として政治運動に関する文献を取り上げる。必要に応じてそれら文書の背景となるコミンテルン資料も読む。なお、史料の内容や背景を理解するには、一定の中国革命史・現代史にかんする全般的基礎知識が必要なので、講義形式の解説を必要に応じて加えることとする。 各回の計画としては、1～2回目の授業で史料について解説を行った後、3回目以降は担当者を決めて史料を読み進めていく予定である。											
【履修要件】											
現代中国語の資料をもちいるので、中国語についての理解力・読解力（第二外国語履修程度）が履修要件となる。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点											
【教科書】											
使用しない テキストはコピーして授業の際に配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
指定部分の日本語訳											
（その他（オフィスアワー等））											
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、十分な予習が必要である。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 文学研究科 准教授 斎藤 理生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		1940年代の短篇小説									
【授業の概要・目的】											
太宰治を中心に、1940年代に発表された短篇を精読する。											
【到達目標】											
1940年代の短篇作品について理解を深めることはもちろん、近代小説の読解方法を身につけることが目標である。具体的には、作品の読解を通じて、自分なりの論点を見つけ、明確な論拠を示して論を展開できるようになると共に、議論を通じて自らの読みを対象化して捉えられるようになることを目指す。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクションとして、授業の概要、進め方を説明し、受講生の発表担当作品と発表順を決める。											
第2回 中島敦『山月記』について複数の角度から検討し、討論する。											
第3回 志賀直哉『灰色の月』について複数の角度から検討し、討論する。											
第4回 坂口安吾『復員』について複数の角度から検討し、討論する。											
第5回 太宰治『満願』について議論する。											
第6回 太宰治『畜犬談』について議論する。											
第7回 太宰治『待つ』について議論する。											
第8回 なかじきり：ここまでの議論をまとめ、ふり返る。											
第9回 太宰治『親友交歓』について議論する。											
第10回 太宰治『フォスフォレスセンス』について議論する。											
第11回 太宰治『I can speak』について議論する。											
第12回 太宰治『葉桜と魔笛』について議論する。											
第13回 太宰治『燈籠』について議論する。											
第14回 太宰治『黄金風景』について議論する。											
第15回 まとめ：太宰治を中心とした1940年代の短篇について討論する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
発表、及び授業中の発言などの平常点による。授業内に発表できなかった受講生は、レポートによって評価する。発表・レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

発表者以外の受講者もあらかじめ作品を読み、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 文学研究科 准教授 斎藤 理生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		織田作之助の小説を読む									
【授業の概要・目的】											
織田作之助の小説作品を精読する。											
【到達目標】											
織田作之助の作品について理解を深めることはもちろん、近代小説の読解方法を身につけることが目標である。具体的には、作品の読解を通じて、自分なりの論点を見つけ、明確な論拠を示して論を展開できるようになると共に、議論を通じて自らの読みを対象化して捉えられるようになることを目指す。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクションとして、授業の概要、基本的な作品分析の進め方を説明し、受講生の発表担当作品と発表順を決める。											
第2回 織田作之助の創作活動について講師が概説する。											
第3回 「馬地獄」を講師が精読し、議論する。											
第4回 『それでも私は行く』を講師が精読し、議論する。											
第5回 ここまでの内容について全員で討議する。											
第6回 『俗臭』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第7回 『夫婦善哉』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第8回 『放浪』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第9回 『雪の夜』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第10回 ここまでの内容について全員で討議する。											
第11回 『木の都』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第12回 『蛭』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第13回 『猿飛佐助』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第14回 『競馬』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第15回 まとめ：織田作之助の創作活動全体について討論する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
発表、及び授業中の発言などの平常点による。授業内に発表できなかった受講生は、レポートによって評価する。発表・レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

発表者以外の受講者もあらかじめ作品を読み、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系41

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 客員准教授 山本 昭宏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化からみる集合的 記憶 と集合的 夢									
【授業の概要・目的】											
<p>私たちの社会は、多様な方法で過去を記憶し、未来を夢見ている。過去を記憶し、未来を夢見るといふ行為を方向付けるものの一つとして、メディア文化を挙げることができる。マスメディアの報道だけでなく、広く共有された映画・マンガ・文学などは、それぞれの時代における集合的 記憶 や集合的 夢 について、その一端を分析する有効な手がかりになるだろう。</p> <p>この授業では、まず二回目の授業で講師が特定の映画作品を取り上げてそれを分析してみせる。それを踏まえた上で、三回目以降は、受講生が順番に報告し・議論する。取り上げるメディア文化は、一回目の授業で決める。各自、個人報告をしてもらうが、受講生の数によってはグループ報告に変更することもあり得る。</p>											
【到達目標】											
<p>近現代の日本社会における、戦争（戦場、原爆、空襲）やビックイベント（オリンピックや博覧会）、あるいは日常生活（夢見られた「豊かな生活」）などについて、集合的 記憶 と集合的 夢 の動態を理解する。</p> <p>具体的には、歴史学と社会学の先行研究の理解と、文献資料調査を通じて、批判的思考能力を養うとともに、個人報告（グループ報告）を通して、プレゼンテーション能力を高める。加えて、共同討議で発言することで、「質問する力」や「コメントする力」を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとテーマ設定、報告順の決定（1回目）</li> <li>2 講師による講義 報告のポイント共有（2回目）</li> <li>3 受講生による報告と共同討議 <ol style="list-style-type: none"> <li>3～6回目：戦争の 記憶</li> <li>7～10回目：原爆の 記憶</li> <li>10～11回目：原子力の 夢</li> <li>12～13回目：宇宙開発の 夢</li> <li>14～15回目：豊かな生活の 夢</li> </ol> </li> <li>4 議論の総括（15回目）</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

## メディア文化学(演習II)(2)

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点と期末のレポート

なお、平常点とは、授業内での個人報告（グループ報告）を指す。

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

### [授業外学習（予習・復習）等]

個人報告（グループ報告）の順番が決まったあとは、担当するメディア文化（映画・マンガ・文学）を分析するだけでなく、その作品が当時の社会でどのように受け止められたのかを調査してもらう。

そのため、大学図書館での予習が必須である。詳細は授業で指示する。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 客員准教授 山本 昭宏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		映像表現・映像資料からみる近現代の日本社会									
【授業の概要・目的】											
<p>映画・アニメーション・ドキュメンタリー、TVドラマなどの映像表現・資料は近現代社会を知るための資料でもある（近年は個人所蔵のホームビデオなどの資料的価値も高まっている）。この授業では、戦後日本社会に焦点を絞り、多様な映像表現・資料を時代別に取り上げることで、戦後史を理解する。映像表現から、従来言われている通説を理解すると同時に、通説に修正の余地を見出す批判的な読解と調査を求める。</p> <p>この授業では、まず二回目の授業で講師が特定の映像表現を取り上げてそれを分析してみせる。それを踏まえた上で、三回目以降は、受講生が順番に報告し・議論する。</p> <p>取り上げる映像表現・資料は、一回目の授業で決める（一回目に出られない者は二回目に決める）。各自、個人報告をしてもらうが、受講生の数によってはグループ報告に変更することもあり得る。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業で求められていることは、映像表現・資料を選び、観るだけではない。選んだ映像について、先行研究・制作者たちの意図・当時の社会での評価を調べてもらう。批判的思考と資料の収集能力を養う。個人報告（グループ報告）を通して、プレゼンテーション能力を高める。加えて、共同討議で発言することで、「質問する力」や「コメントする力」を養う。したがって、「自分の報告が終われば出席しない」というような態度は認められない。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとテーマ設定、報告順の決定（1回目）</li> <li>2 講師による講義 報告のポイント共有（2回目）</li> <li>3 受講生による報告と共同討議 <ol style="list-style-type: none"> <li>3～5回目：戦後復興期</li> <li>6～9回目：高度経済成長</li> <li>9～10回目：70年代の家族</li> <li>11～12回目：80年代以降の消費社会</li> <li>13～14回目：90年代以降の現代</li> </ol> </li> <li>4 議論の総括（15回目）</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
-----メディア文化学(演習II)(2)へ続く-----											

## メディア文化学(演習II)(2)

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点と期末レポートにより総合的に判断する。  
なお、平常点は授業内の報告と共同討議でのコメントで評価する。

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学習(予習・復習)等]

個人報告(グループ報告)の順番が決まったあとは、担当する映像表現・資料を分析するだけではなく、その作品が当時の社会でどのように受け止められたのかを調査してもらう。  
そのため、大学図書館での予習が必須である。詳細は授業で指示する。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都精華大学 国際マンガ研究センター 研究員 伊藤 遊			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		二十世紀以降の日本のマンガ環境について考える マンガ雑誌を手がかりに									
【授業の概要・目的】											
<p>現代日本に居住する私たちの身の回りには、ひとりではとうてい網羅できないほど、多種多様なマンガの雑誌や単行本があふれている。とりわけ戦後の日本社会を考察する上で、マンガは避けて通れない視覚表現・メディアと言えよう。</p> <p>本講義では、そうしたマンガ環境の一側面を具体的に考察するために、マンガ雑誌を資料とした演習を行う。掲載された作品はもとより、活字記事や広告等から、そのメディア的特徴、各誌の出版戦略、マンガ誌の文化的意義、「マンガ読者」という共同体の有様など、複眼的な考察を行い、微視的には「マンガ文化のあり方」を、巨視的には「二十世紀以降の大衆文化の有様」の一端を把握することがねらいである。</p> <p>形式は、受講者による発表が基本。これをふまえ、受講者全体でのディスカッション、担当教員のコメントを加える。</p>											
【到達目標】											
<p>マンガ雑誌という具体的な素材に実際に触れる機会を持つことで、ポピュラー文化研究における文献調査の方法論を学ぶ。</p> <p>同時に、プレゼンテーションの技術と方法論を実践的に学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス。発表順・日程の調整。</p> <p>第2回：担当教員による講義。現在のマンガ雑誌に関する情報と視点を提供。</p> <p>第3回：担当教員による「京都国際マンガミュージアム」における講義。マンガミュージアム所管のマンガ雑誌資料について解説。テーマ設定についてディスカッション。</p> <p>第4回～第5回：雑誌を使ったマンガ研究の論文を講読</p> <p>第6回～最終回：受講者による発表。（*）</p> <p>（*） 最低1冊のマンガ雑誌を取り上げ、（A）テーマを設定した上で、あるいは（B）指定のテーマに従って、少なくとも5年分を調査の上、そこにおける変化やそのコンテキスト等について分析する。</p>											
【履修要件】											
特にないが、少なくとも1回、「京都国際マンガミュージアム」（京都市中京区）での授業を実施する。											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

出席点：30点、発表内容・ディスカッションへの貢献度：70点

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

発表のための文献調査を各自で行うことが必要となる。必要に応じて、担当教員がその調査をサポートする。

(その他(オフィスアワー等))

「京都国際マンガミュージアム」(京都市中京区)での授業を実施する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 森下 達			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		映像メディア論									
【授業の概要・目的】											
メディアの映像は現代の暮らしに大きな影響を与えている。作為であれ不作為であれ映像は操作されて視聴者に届けられる。ドキュメンタリーの過去の作品10本余を取り上げて、作り手の意図、視点を読み解いていく。ニューススタイルのドキュメンタリーについても考察し、可能性について考えていく。											
【到達目標】											
映像メディア、とりわけテレビドキュメンタリー番組はどのように手法やコンテンツを構築していったかを理解し、今後のテクノロジーの進展にどのように対応していくかを探る。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、オリエンテーション：テレビという文化の歴史</li> <li>2、ドキュメンタリーとは何か：虚構と事実の関係</li> <li>3、番組のジャンル：フィクション、エンターテインメントと並存する事実番組</li> <li>4、ヒューマンドキュメンタリー：ヒトを描く、時代を掴む</li> <li>5、主題としての戦争：戦争を知らない世代が制作する視点</li> <li>6、戦争の記憶：8・6、8・15をめぐって編成された作品群</li> <li>7、ドキュメンタリーの演出とは何か：ヤラセの構造と風土</li> <li>8、他のメディアと融合する：マンガ、アニメ、ネットの活用</li> <li>9、フィードバック</li> <li>10、新しい傾向、シチュエーション/スマホドキュメンタリーへの挑戦</li> </ol>											
【履修要件】											
毎日曜日のNHKスペシャル、情熱大陸を視聴。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
受講後のレポート。											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

## メディア文化学(演習II)(2)

### [教科書]

山登義明 『ドキュメンタリーを作る2・0』（京都大学学術出版会）  
桜井均 『テレビは戦争をどう描いてきたか』（岩波書店）

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学習（予習・復習）等]

次の映像作品のうち1つは視聴すること。「ジョーズ」(スピルバーグ)、「この世界の片隅に」(片渕須直)、「家、ついて行ってイイですか」(TV番組)、「君の名は。」(新海誠)。

### (その他（オフィスアワー等）)

集中講義なので「オフィスアワー」はとくに設けません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系45

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習Ⅱ） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉本 淑彦 (有)京都旅企画 代表取締役 滑田 教夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		京都市西山地区の文化観光プロジェクト									
【授業の概要・目的】											
現在の京都市では、東山地区に観光客が集中し、交通渋滞や「京都らしさ」の低下など、さまざまな問題がおこっている。一方、西山地区では、観光客誘致が取り組まれてきたものの、期待された成果が生みだされていない。西山地区の潜在的観光資源を調査したうえで、それを利用した文化観光企画を考案する。											
【到達目標】											
地区の文化的歴史を調査することによりリサーチ力を高め、その歴史を地区の経済的活性化のために利用する工夫を考察することにより企画力を養い、その企画を実際に商品化するプロセスを学ぶことにより提案力を涵養できる。nbsp											
【授業計画と内容】											
1 課題あたり 1 ~ 3 週の授業をする。											
* イントロダクション：「観光を活かした地域づくり」総論 * 宿泊施設の現状と今後の課題 * 文化観光の先例 * 京都市西山地区の観光資源検討 * 西山地区観光客の現状と課題 * 各自が作成した企画案の検討 * 観光商品化へ向けた課題を検討 最終回：フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（リサーチ力40点、企画力40点、提案力20点）で評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- メディア文化学（演習Ⅱ）(2)へ続く -----											

## メディア文化学（演習II）（2）

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学習（予習・復習）等】

西山地区を自身の足で歩き、自身の目で観察してください。

### （その他（オフィスアワー等））

受け入れ数5名ほどの少人数演習です。  
講義希望者が多い場合は、面接による選抜をおこないます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		国際日本文化研究センター 松田 利彦 研究部 教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		韓国語資料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>朝鮮近現代史を研究テーマとする学生や、それ以外の分野の専攻でも韓国語の論文や資料を使いたいという学生のために、資料収集や学術論文の読解ができるようお手伝いをします。外国語の資料を使いこなすのは大変なことです。段階的にその技術を身につけられるように、授業は大きく3つのパートに分かれています。インターネットを含む朝鮮近代史関係資料探しのためのツールなどについて講義します。近年の植民地期朝鮮史研究の動向を理解できる概説的な論文(韓国語)を講読します。受講生の関心に応じて、朝鮮史に関わる学術論文や一次史料(韓国語)を精読します。昨年度は、論文「北朝鮮帰国事業の再照明」、植民地時代に投獄された文学者の日記、京城帝国大学教授の新聞投稿記事の抜粋を読みました。</p>											
【到達目標】											
<p>1) インターネットを含む朝鮮近代史関係史料の調べ方を身につけ、自ら資料探索ができるようになります。</p> <p>2) 韓国語論文を読むための基礎的な知識を得ることができます。</p> <p>3) 朝鮮近現代史についての一次史料を精読することによって、資料から歴史像を構築するトレーニングを積むことができます。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1回目 朝鮮近代史についての概説講義</p> <p>2回目 朝鮮近代資料論の講義</p> <p>3～6回目 近年の植民地期朝鮮史研究の動向を論じた韓国語論文の講読</p> <p>7～15回目 韓国語で書かれた論文・自叙伝・小説・日記・新聞などの一次史料の精読</p>											
【履修要件】											
<p>韓国語の学習歴が求められます。授業中に指示しますが、与えられた資料を読むだけでなく、資料の背景について自分で調べてもらって10分程度のミニ報告をしてもらうこともあります。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>論文講読・資料精読の平常点により成績評価をおこないます。</p>											
-----メディア文化学(演習II) (2)へ続く-----											

メディア文化学（演習II）（2）

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する  
毎回プリントを配布して参考文献を紹介します。

**[授業外学習（予習・復習）等]**

講読・精読については予習を必須とします。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習Ⅱ） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アメリカ外交文書演習									
【授業の概要・目的】											
現代史を考える上で、アメリカ合衆国の動向は（好悪にかかわらず）きわめて重要である。さいわい、そのアメリカの重要な外交文書の重要なものは、刊本などの形で公刊されており、比較的容易にアクセスできる。（これは、アメリカの尊敬すべき文化のひとつでもある。）本演習では、アメリカの対外政策の形成や対外的行動の実際を、公刊されたアメリカ外交文書集に収録された一次史料を読解することを通じて分析する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ外交文書の種類や所在について基本的な知識を修得し、自らの関心に沿って文書を探索できるようになる。</li> <li>・アメリカ外交文書の読み方や研究への活用の仕方を修得する。</li> <li>・上記を通じて、一次史料から歴史を考察し歴史的分析を展開するための基本的な知識と技術（そして願わくはセンス）を修得する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>下記のアメリカ外交文書集の日本関係のセクションの後半（pp.1265-1398）を読み進めていく。 Foreign Relations of the United States, 1950, Volume VI: East Asia and the Pacific. 全15回の授業で、毎回、10ページをめどに読み進めていく。 具体的な授業の進め方や報告方法は、受講者の人数や顔ぶれを見て決定する</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末試験は行わず、平常点で評価する。											
【教科書】											
<p>上記のアメリカ外交文書集を各自で準備すること。 刊本は、文学部を含め、学内に複数の所蔵あり。ウィスコンシン大デジタル・アーカイブでPDF版を、アメリカ国務省歴史課（Office of Historian, Department of State）でテキスト版を、それぞれ無料で入手可能。</p>											
-----メディア文化学（演習Ⅱ）(2)へ続く-----											

メディア文化学（演習II）（2）

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学習（予習・復習）等]**

毎回10ページ程度読み進めるので、受講者は全員当該箇所を読んでおくこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習Ⅱ） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アメリカ外交文書演習									
【授業の概要・目的】											
現代史を考える上で、アメリカ合衆国の動向は（好悪にかかわらず）きわめて重要である。さいわい、そのアメリカの重要な外交文書の重要なものは、刊本などの形で公刊されており、比較的容易にアクセスできる。（これは、アメリカの尊敬すべき文化のひとつでもある。）本演習では、アメリカの対外政策の形成や対外的行動の実際を、公刊されたアメリカ外交文書集に収録された一次史料を読解することを通じて分析する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ外交文書の種類や所在について基本的な知識を修得し、自らの関心に沿って文書を探索できるようになる。</li> <li>・アメリカ外交文書の読み方や研究への活用の仕方を修得する。</li> <li>・上記を通じて、一次史料から歴史を考察し歴史的分析を展開するための基本的な知識と技術（そして願わくはセンス）を修得する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>前期に引き続き、下記のアメリカ外交文書集の日本関係のセクションの後半（pp.1265-1398）を読み進めていく。日本関係セクション終了後は、アジア関係のセクションに進む予定。</p> <p>Foreign Relations of the United States, 1950, Volume VI: East Asia and the Pacific.</p> <p>全15回の授業で、毎回、10ページをめどに読み進めていく。</p> <p>具体的な授業の進め方や報告方法は、受講者の人数や顔ぶれを見て決定する。</p>											
【履修要件】											
必須ではないが、前期の同名科目を受講していることが望ましい。（授業は、前期の受講者を前提として進める。）											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末試験は行わず、平常点で評価する。											
【教科書】											
<p>上記のアメリカ外交文書集を各自で準備すること。</p> <p>刊本は、文学部を含め、学内に複数の所蔵あり。ウィスコンシン大デジタル・アーカイブでPDF版を、アメリカ国務省歴史課（Office of Historian, Department of State）でテキスト版を、それぞれ無料で入手可能。</p>											
----- メディア文化学（演習Ⅱ）(2)へ続く -----											

## メディア文化学（演習II）（2）

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学習（予習・復習）等】

毎回10ページ程度読み進めるので、受講者は全員当該箇所を読んでおくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習Ⅱ） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 朴 珍姫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		テレビドラマから考える韓国社会									
【授業の概要・目的】											
<p>近年アジアを中心に韓国のポピュラーカルチャーへの関心が高まっている。人々はそれを「韓流ブーム」と呼び、その中核には「K-POP」や「韓流ドラマ」などのメディアがある。中でも韓国のテレビドラマはそのほとんどが女性をターゲットに、また韓国国内市場で消費されることを前提に制作されており、韓国女性の欲望と社会情勢に非常に敏感に反応し、その時代によって変容してきた。</p> <p>本演習ではテレビドラマ作品やそれに関連する論文、書籍などを資料に韓国社会について考察する。まずその前提知識として講師が韓国社会におけるテレビドラマの形成過程について講義を行い、2～3回に渡って特定の作品を取り上げて分析を行う。受講生はそれを踏まえた上、各自取り上げるメディア作品を選択し報告・議論を行う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次資料の分析。</li> <li>・映像資料の分析・研究への活用方法を身につける。</li> <li>・プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>1回 ガイダンス - 受講者の発表順・日程調整を含む。</p> <p>2～4回 講師による講義 - 韓国におけるテレビドラマの形成過程と作品分析。</p> <p>5～14回 受講生による報告と共同討議</p> <p>15回 議論の総括</p> <p>なお、授業の進捗と受講者の状況によって、上記の予定を変更することがある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（報告内容、共同討議への貢献度、小レポート等）で評価する。											
----- メディア文化学（演習Ⅱ）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習II）(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

（参考書）

授業中に紹介する

**[授業外学習（予習・復習）等]**

・映像資料を用いての報告することが必要になる。  
必要に応じて担当教員がその調査方法等をサポートする。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習Ⅱ） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学衣笠総合研究機構 井上 明人 客員研究員			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		コンピュータ・ゲーム研究の現在									
【授業の概要・目的】											
<p>コンピュータ・ゲームの文化的隆盛を背景として、コンピュータ・ゲームについての人文学的な議論は、この20年で急速にすすんできた。一体、ゲームの何が重要な人文学の問題となりうるのか。近年の国際的なゲーム研究の動向を踏まえつつ、特に着目されている論点を紹介しつつ、共に議論をしていきたい。</p> <p>本講義はコンピュータ・ゲームに関わる研究とはいえ、人文学や批評に親しみのある者にとっては、ポストモダン論やジェンダー論、文化的抵抗など、どこかで聞いたことがあるであろう話を聞くことになるはずだ。欧米圏のゲーム研究の進展の半分近くは、こうした既存の文化研究の文脈を引き継いでいる。ただし、他方では、コンピュータ・ゲームという領域に独自の魅力を含む論点も数多く含んでいる。受講者にはその「差分」を味わいながら、議論に加わってもらいたいと思う。</p> <p>なお、なるべく日本語の文献を多くするが、中には邦訳のないものも含まれるため、若干の英語文献も含まれる。</p> <p>評価については、最終レポート（4000字以上）の内容を基に行うが、どのような内容を予定しているかについて、途中で3回ほど計画を提出してもらおう。詳細な評価基準については、授業第1回目でループリック表の形で告知する。</p>											
【到達目標】											
発展しつつあるゲーム研究の様々な論点を理解し、その視点から現在の文化状況についてメタ的な考察が展開できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.文化資源としてのゲーム</li> <li>2.ルールとフィクション</li> <li>3.ポストモダンの社会論とゲーム</li> <li>4.メディアミックス</li> <li>5.手続き的レトリック</li> <li>6.シチュアシオニスト</li> <li>7.カウンターゲーミング</li> <li>8.アジールとしてのゲーム・カルチャー</li> <li>9.メタ・ゲーム</li> <li>10.エルゴード的文学性</li> <li>11.アイデンティティ</li> <li>12.ジェンダーとサブカルチャー</li> <li>13.語ることと当事者性</li> <li>14.社会的活用</li> <li>15.総括</li> </ol>											
----- メディア文化学（演習Ⅱ）(2)へ続く -----											

## メディア文化学（演習II）(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

レポート（3回、各10点）  
最終レポート（1回、70点）

### 【教科書】

必要な資料はパワーポイント、配布資料等で適宜提示する。

### 【参考書等】

（参考書）

松永伸司『ビデオゲームの美学』（慶應義塾大学出版会）ISBN:978-4-7664-2567-3（英語圏でのコンピュータ・ゲームに関する人文系研究を本格的にフォローしている唯一の和書です。）  
イエスパー・ユール 著, 松永伸司 訳『ハーフリアル 虚実のあいだのビデオゲーム』（ニューゲームズオーダー）（コンピュータ・ゲーム研究のなかで、近年もっとも参照される文献の一つです。）

文献ではなくゲームになるが

『My Child Lebensborn』

『Florence』

『Coming Out Simulator』

『this war of mine』

などのゲームに少し触れておいてもらえると、コンピュータ・ゲームの議論の広まりを少し理解してもらえらると思う。

### 【授業外学習（予習・復習）等】

最終レポートに関していきなりとりかかるのではなく、段階的に計画を練ってもらう必要がある  
ので、授業の各段階で、文献調査・仮設の設定・再調査のプロセスに時間を使ってもらいたい。  
各回の授業で、あらかじめ触れておいてほしい作品等については指示する。

### （その他（オフィスアワー等））

授業担当者への連絡はメールで受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系51

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉本 淑彦 文学研究科 教授 永原 陽子 文学研究科 教授 小野沢 透 文学研究科 准教授 塩出 浩之			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時間	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		大学院演習 A									
【授業の概要・目的】											
修士論文および博士論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、議論構築、文献調査、聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代文化に関わる多様な研究テーマに関する学知を深める。											
【到達目標】											
修士論文および博士論文を作成する上で必要になる力を養う。											
【授業計画と内容】											
1回目: 修士論文・博士論文の予定テーマについて、各受講生がその要略を説明する。 2回目以降: 各回とも、1名の受講生が、修士論文・博士論文の予定テーマについて、研究の意義、先行研究、論旨、文献について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、研究をさらに進める場合の課題を考える。 最終回: フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（報告に応じた適切な発言内容、および発言頻度。60点）とレポート（40点）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） なし											
【授業外学習（予習・復習）等】											
各自が個別報告するにあたって配布するレジュメについて、報告時間が1時間以内におさまる分量にすることと、報告の二日前までには完成させるよう、心がけなさい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 現代文化学系52

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉本 淑彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		修士論文作成演習									
【授業の概要・目的】											
修士論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、議論構築、文献調査、聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代を中心とするメディア文化に関わる多様な研究テーマに対する学知を深める。											
【到達目標】											
修士論文を作成する上で必要になる力を養う。											
【授業計画と内容】											
1回目：修論予定テーマについて、受講生全員が、その要略を説明する。 2回目以降：各回とも、1名の受講生が、修論予定テーマについて、研究の意義、先行研究、論旨、文献について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、さらに研究を進める場合の課題を考える。 最終回：フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） なし											
【授業外学習（予習・復習）等】											
各自が個別報告するにあたって配布するレジュメについて、報告の二日前までには完成させるよう、心がけなさい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 駒込 武			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		東アジアにおける「戦後」を考える									
【授業の概要・目的】											
<p>東アジアにおける「戦後」を考える。</p> <p>さしあたって「東アジア」という範囲で考えているのは、日本・朝鮮・台湾・中国。ただし、日本における沖縄・奄美諸島や在日朝鮮人をめぐる状況、朝鮮半島および中国における内戦、台湾における「本省人」と「外省人」、中国大陆における漢族とモンゴル民族のあいだの緊張関係などを見据えながら、単に国家間の対立の次元ではなく、多元的・複層的な対立状況をふまえてを考える。</p> <p>「戦後」東アジア各地に生じた独裁的な統治体制とこれに先行する帝国日本の統治体制はイデオロギー的には対立的であったとしても、全体主義的な統治の手法という点では通底する側面があったのではないか？その上で、生活や文化の次元においてこれを打ち破ろうとする動きがどのような形で存在しえたのか。</p> <p>今日の日本社会における夜郎自大的な思想状況を克服して、「和解」と「平和」に連なる教育を構想するための基礎的作業として取り組みたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育問題を世界史的な視野から把握し、歴史認識や歴史教育をめぐる国家・地域間の対立を克服するための素養を養う。</li> <li>・思想史的な文献にかかわる読解能力を身に付ける。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>今年度前期は主に藤田省三『全体主義の時代経験 新装版』（みすず書房、2014年）を読む。藤田省三のテキストの丁寧な読解を中心としながらも、一方でハンナ・アーレントなど藤田の参照している思想にかかわる研究をフォローすると共に、他方において戦後東アジア世界の現実に即して「全体主義」という問題を考えるとどのような問題が見えてくるのか（あるいは「全体主義」という角度から切り込むのが不適切だとすればそれはなぜなのか）を考える場としたい。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 藤田省三『全体主義の時代経験 新装版』を読む。 第15回 総合討論</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点…報告（50%）と授業内での発言（50%）。											
【教科書】											
授業中に指示する											
-----メディア文化学（演習）(2)へ続く-----											

メディア文化学（演習）(2)

---

**[参考書等]**

（参考書）

**[授業外学習（予習・復習）等]**

指定された文献を事前に読んでおくことが「予習」としての意味を持つ。

**（その他（オフィスアワー等））**

新規参加希望者は、かならず第1回目の授業よりも前に、駒込まで連絡すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 駒込 武			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		東アジアにおける「戦後」を考える									
【授業の概要・目的】											
<p>東アジアにおける「戦後」を考える。</p> <p>さしあたって「東アジア」という範囲で考えているのは、日本・朝鮮・台湾・中国。ただし、日本における沖縄・奄美諸島や在日朝鮮人をめぐる状況、朝鮮半島および中国における内戦、台湾における「本省人」と「外省人」、中国大陆における漢族とモンゴル民族のあいだの緊張関係などを見据えながら、単に国家間の対立の次元ではなく、多元的・複層的な対立状況をふまえてを考える。</p> <p>「戦後」東アジア各地に生じた独裁的な統治体制とこれに先行する帝国日本の統治体制はイデオロギー的には対立的であったとしても、全体主義的な統治の手法という点では通底する側面があったのではないか？その上で、生活や文化の次元においてこれを打ち破ろうとする動きがどのような形で存在しえたのか。</p> <p>今日の日本社会における夜郎自大的な思想状況を克服して、「和解」と「平和」に連なる教育を構想するための基礎的作業として取り組みたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育問題を世界史的な視野から把握し、歴史認識や歴史教育をめぐる国家・地域間の対立を克服するための素養を養う。</li> <li>・思想史的な文献にかかわる読解能力を身に付ける。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>今年度後期は主に呉叡人『受困的思想』（衛城出版、2016年）を読む。</p> <p>本書は、台湾の歴史と現在の双方を視野に入れながら、台湾における植民地主義・民族主義とは何であるかを問う歴史書であると同時に、政治と道德との関係をラディカルに考察した思想的著作である。東アジア世界における「戦後」を全体主義という言葉で把握できるとして、「更新されるべき正義（轉型正義）」という観点からこれを打ち破ろうとする書物として読むこともできる。</p> <p>テキストは中文なので、参加者は基本的に駒込による試訳に基づいて討議する（中文読解能力のある者は、原文と照らし合わせて駒込試訳の適切さについても論を提起することが期待される）。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 呉叡人『受困的思想』（衛城出版、2016年）を読む。 第15回 総合討論</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- メディア文化学（演習）(2)へ続く -----											

## メディア文化学（演習）(2)

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点...報告（50点）+ 参加状況（出席、授業内での発言等）（50点）

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学習（予習・復習）等]

テキストの読解が授業の「予習」となる。

### （その他（オフィスアワー等））

初めてこの授業に参加する者は、必ず第1回目の授業よりも前に連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永原 陽子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		南部アフリカ現代史の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>南部アフリカ（南アフリカおよび周辺諸国）の、アパルトヘイト体制崩壊以降の歴史を、背景となるそれ以前の時期の歴史を含めて、扱う。</p> <p>南部アフリカ諸地域は、第二次世界大戦後にアパルトヘイト体制を本格化させた南アフリカを中心に、世界が脱植民地する時期に、いわばそれに逆行するかのよう、植民地主義と人種主義のさらなる激化を経験した。1990年代以降、その体制が崩壊し、現在に至るまで、大きな社会変動が生まれている。その変動の中で当該社会がどのような課題に直面し、それらをどのように乗り越えようとしているのかを多面的に取り上げる。それを通じて、植民地主義とアパルトヘイトとはどのようなものであったかを考え、さらには、ポストコロニアリズムとコロニアリズムとの関係に考察を及ぼせる。</p> <p>以上のような南部アフリカ社会の検討は、世界各地での脱植民地化や、紛争後社会の体制移行の問題についての理解をも深めることに通ずるだろう。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・南部アフリカのアパルトヘイト体制とその前史としての植民地主義について、基本的な事実を理解する。</li> <li>・1990年代以降の南部アフリカ社会の変動にかんする基本的事実、人々の抱えている課題とその克服の試みについて、世界史の中に位置づけて理解する。</li> <li>・南部アフリカ社会の変動についての理解を通じて、現代世界の抱える基本的な問題としての帝国主義と脱植民地化についての理解を深め、「現代」を考察する視座を得る。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
以下の項目を扱う。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 序論 南部アフリカの現代から世界の現代史を考える</li> <li>2 前史 植民地主義とアパルトヘイト</li> <li>3 アパルトヘイト体制の崩壊</li> <li>4 ANCとネルソン・マンデラの思想</li> <li>5 新憲法</li> <li>6 真実和解委員会の活動</li> <li>7 真実和解委員会の残したもの</li> <li>8 土地改革の理念と構造</li> <li>9 土地改革の実際</li> <li>10 ネオリベラリズムと社会的公正</li> <li>11 伝統的権威と近代民主主義</li> <li>12 伝統的権威と伝統法</li> <li>13 伝統とジェンダー</li> </ol>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

- 14 「脱植民地化」をめぐる論争  
15 まとめとフィードバック

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

学期末の試験。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

授業中に適宜指示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 文学部 教授 庵迢 由香			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時間	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮近現代史の諸問題									
[授業の概要・目的]											
<p>本講義では、朝鮮半島の近現代史について、特に朝鮮半島と日本との間に生じている歴史葛藤の問題を、具体的な課題ごとにその研究状況や現状と問題点について史料に即して学ぶことを目的とします。</p> <p>近年、東アジアでの人の移動や文化交流が急速に拡大する一方で、日本と韓国・朝鮮・中国との歴史問題をめぐる葛藤が深刻化しています。日本の朝鮮半島植民地支配や中国侵略の歴史に端を発するこの問題は、今後東アジアに関心を持ち学ぼうとする学生にとっては、いずれ直面しなければならない問題でもあります。何が問題になっているのか、事実関係はどうなのか、問題の本質は何かを、史料と研究に即して学び、それをもとに今後どのように解決していくべきなのかを、今後の東アジア関係のあり方とともに共に考えてゆきたいと思います。</p>											
[到達目標]											
<p>朝鮮近現代史の諸問題や研究状況を理解する。 東アジアの歴史葛藤問題について理解し、自分なりの意見を述べることができる。 歴史問題に関わる論点について、事実や資料に即して説明できる。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 . 講義概要(講義の進め方、成績評価、自己紹介など)および概論</li> <li>2 . 日本と朝鮮半島の歴史葛藤問題を考える</li> <li>3 . 戦後日韓関係の展開 1 : 日韓相互認識の変遷</li> <li>4 . 戦後日韓関係の展開 2 : 日韓交渉と日韓条約</li> <li>5 . 戦後日韓関係の展開 3 : 戦後補償問題の進展</li> <li>6 . 労働力・兵力強制動員問題 1 : 動員政策の展開と朝鮮社会</li> <li>7 . 労働力・兵力強制動員問題 2 : 日本における地域運動</li> <li>8 . 労働力・兵力強制動員問題 3 : 韓国における戦後補償運動の展開</li> <li>9 . 労働力・兵力強制動員問題 4 : 戦後補償裁判</li> <li>10 . 労働力・兵力強制動員問題 5 : 近年の状況・まとめ</li> <li>11 . 日本軍「慰安婦」問題 1 : 「慰安所」制度の構造</li> <li>12 . 日本軍「慰安婦」問題 2 : 「慰安婦」制度の実態</li> <li>13 . 日本軍「慰安婦」問題 3 : 「慰安婦」運動の展開</li> <li>14 . 教科書問題</li> <li>15 . まとめ</li> </ol> <p>講義の進行状況や、受講生の関心によって、講義内容を変更することもあります。</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

平常点(40点)： コミュニケーションペーパー提出、質疑応答などの参加態度などを総合的に評価する。  
レポート(60点)： 講義内で取り扱ったテーマ・人物・事件などの中で関心のあるものを一つ選び、レポートを提出すること。2000字以上とし、論文・書籍などの参考文献を必ず3つ以上利用すること。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

講義中に提示する参考文献や資料を、各自の関心に従い読んでください。

**(その他(オフィスアワー等))**

状況に応じて、講義内でグループ討論も考えています。積極的な授業参加を期待しています。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学グローバル地域文化学部 石井 香江 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「男らしさ」から読み解く現代史									
【授業の概要・目的】											
<p>「男性」に注目し、かつ男女双方のジェンダーを統合する問題構成を持つ男性史の展開は、女性学・男性学の展開、社会史・女性史・ジェンダー史の展開とも並行して1990年代に欧米で本格化する。その後、コンネルが提示した「男らしさ」の複数性という見方や、ブルデューのハビトゥス概念を援用ないし批判する様々なテーマや地域・時代を対象にした実証研究が蓄積されている。本講義では、以上の展開をおさえた後、「男らしさ」の核心をなす「闘い」・「暴力」（また、これらを支える「身体」）というテーマに主に着目し、ドイツ及び隣接する国々の現代史（「闘い」・「暴力」が全面化する戦争）で「男らしさ」が果たした役割と帰結について理解し、考察したい。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 「男らしさ」という概念と男性史の持つ意義を女性史・ジェンダー史と関連付けて理解する。</p> <p>(2) ドイツ及び隣接する国々の現代史、特に「闘い」・「暴力」が全面化する戦争のメカニズムを、「男らしさ」という概念を軸に、かつ具体的な文字・図像史料を読み解くことを通じて理解する。</p> <p>(3) 戦争における「男らしさ」の役割を理解することを通じて、現代社会のその他の個別の問題と、その背後に潜むジェンダー化された構造を探り当てる手がかりとする。</p>											
【授業計画と内容】											
各2～3回で以下のテーマについて学びます（全15回）。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 男らしさと名誉</li> <li>2. 身体の再発見</li> <li>3. 植民地状況における男らしさ</li> <li>4. 戦争と男らしさ</li> <li>5. 戦争とセクシュアリティ</li> <li>6. 戦後の男らしさの行方</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点 40点（受講生は毎回コメントシートを提出）とレポート 60点（受講生は授業に関連するテーマの課題に対し、自分で調べた上で批評を書き、提出する）で評価する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

授業中に配布するレジюмеと資料の他、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

**[参考書等]**

(参考書)

A・コルバン / J-J・クルティエヌ / G・ヴィガレロ監修 『男らしさの歴史 男らしさの危機？ 20 - 21世紀』 (藤原書店) ISBN:978-4-86578-131-1 (特に購入する必要はありません。)  
その他の参考文献については授業中に適宜指示します。

**[授業外学習(予習・復習)等]**

参考書も含めて、授業中に適宜指示します。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
1 食をめぐる研究の方法											
2 明治大正期の食											
3 アジア太平洋戦争までの食											
4 戦後の食											
5 牛乳の歴史学											
6 品種改良の歴史学											
7 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書）											
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』											
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』											
藤原辰史 『ナチスのキッチン』											
藤原辰史 『カブラの冬』											
ポール・ロバーツ 『食の終焉』											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

藤原辰史 『給食の歴史』

( 関連URL )

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

**[授業外学習(予習・復習)等]**

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
1 食糧戦争としての第一次世界大戦											
2 有機農業の歴史											
3 毒ガスと農薬の歴史											
4 トラクターの歴史											
5 戦時期の農村女性たち											
6 食糧戦争としての第二次世界大戦											
7 フィードバック											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書）											
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。											
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』											
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』											
藤原辰史 『ナチスのキッチン』											
藤原辰史 『カブラの冬』											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』  
藤原辰史 『給食の歴史』

( 関連URL )

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

**[授業外学習(予習・復習)等]**

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系60

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文化財と政治									
【授業の概要・目的】											
<p>2018年度後期に引き続き、「文化財と政治」の問題を考える。現代の文化財は、富岡製糸場などの近代化遺産の評価をめぐる、あるいは「仁徳天皇陵古墳」の呼称で世界遺産登録されようとする陵墓問題などにみられるように、密接に政治と関わっている。</p> <p>明治初期の神仏分離と美術品の海外流出に続き、1880年代には「伝統文化」保存の政策の中で、フェノロサや岡倉天心の文化財保護の活動がはじまる。立憲制の形成とともに帝室博物館、東京美術学校、文化財をめぐるジャンル・等級・時代区分が成立する。この間、国民に開かれた国宝・史跡・名勝・博物館などの文化財と、皇室に秘匿された御物・陵墓・離宮などの私的な財産の二つの文化財の体系が成立する。こうした日本の文化財の有り様を、近現代を通じて考えてゆきたい。前期においては、明治維新から明治期を中心に論じたい。</p>											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「文化財と政治」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天皇制と文化財</li> <li>・ 日本的な文化の語り</li> <li>・ 明治維新と桜</li> <li>・ 近現代の桜</li> <li>・ 廃仏毀釈と文化財の破壊</li> <li>・ 古都奈良の明治維新</li> <li>・ 古都京都の明治維新</li> <li>・ 1880年代の古社寺や旧跡の保存</li> <li>・ 京都御所から京都御苑へ</li> <li>・ 明治維新と陵墓</li> <li>・ 正倉院御物の成立</li> <li>・ フェノロサ・岡倉天心の活動</li> <li>・ ボストン美術館と日本美術</li> <li>・ 臨時全国宝物調査、古社寺保存法</li> <li>・ 「日本美術史」と文化財保護</li> <li>・ 帝室博物館と古都奈良・京都</li> </ul>											
以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房)

高木博志 『近代天皇制と古都』(岩波書店)

**[授業外学習(予習・復習)等]**

京都において、「文化財と政治」に関わる巡見を希望者で行う。

**(その他(オフィスアワー等))**

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系61

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文化財と政治									
【授業の概要・目的】											
<p>2018年度後期に引き続き、「文化財と政治」の問題を考える。現代の文化財は、富岡製糸場などの近代化遺産の評価をめぐって、あるいは「仁徳天皇陵古墳」の呼称で世界遺産登録されようとする陵墓問題などにみられるように、密接に政治と関わっている。</p> <p>明治初期の神仏分離と美術品の海外流出に続き、1880年代には「伝統文化」保存の政策の中で、フェノロサや岡倉天心の文化財保護の活動がはじまる。立憲制の形成とともに帝室博物館、東京美術学校、文化財をめぐるジャンル・等級・時代区分が成立する。この間、国民に開かれた国宝・史跡・名勝・博物館などの文化財と、皇室に秘匿された御物・陵墓・離宮などの私的な財産の二つの文化財の体系が成立する。こうした日本の文化財の有り様を、近現代を通じて考えてゆきたい。後期においては、20世紀を中心に論じたい。</p>											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「文化財と政治」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
(授業計画と内容)											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天皇制と文化財</li> <li>・ 史蹟名勝天然記念物と20世紀の文化財行政</li> <li>・ 吉野山・奈良公園の近現代</li> <li>・ 嵐山・嵯峨の近現代</li> <li>・ 神苑の形成（伊勢神宮・明治神宮・橿原神宮）</li> <li>・ 黒板勝美とハイマートシュツ（郷土色保存）</li> <li>・ 帝国における文化財</li> <li>・ 近現代の陵墓</li> <li>・ 国民道徳と南朝史蹟・赤穂浪士の史蹟</li> <li>・ 内務省と国立公園</li> <li>・ 国宝保存法と文部省の文化財行政</li> <li>・ 紀元2600年事業と神武天皇聖蹟調査</li> <li>・ 伝説・物語と文化財</li> <li>・ 戦後改革と文化財の誕生</li> <li>・ 世界遺産と日本の文化財保護法</li> <li>・ 近代化遺産と陵墓の世界遺産登録問題</li> </ul>											
以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点及び達成度】**

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。

**【教科書】**

プリントを配布する。

**【参考書等】**

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房)

今尾文昭・高木博志編 『世界遺産と天皇陵古墳を問う』(思文閣出版)

**【授業外学習(予習・復習)等】**

奈良において、「文化財と政治」に関わる巡見を希望者で行う。

**(その他(オフィスアワー等))**

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 伝統中国									
【授業の概要・目的】											
<p>グローバル化が進展する現在、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割はますます大きくなっている。例えば、企業がある地域に進出する場合、現地の言語・事情に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わるであろう。本講義は、こうした仲介者の意義について、伝統中国（主として19世紀中葉まで）における事例を中心に、中国経済の歴史的展開をふまえて考察してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>前近代における中国経済の展開を把握したうえで、伝統中国における仲介者の役割について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 古代中国経済と商業</li> <li>3. 隋唐帝国経済と商業</li> <li>4. 宋代商業の発展と仲介者</li> <li>5. モンゴル時代のユーラシア商業</li> <li>6. 明代経済の展開と牙行（1）</li> <li>7. 明代経済の展開と牙行（2）</li> <li>8. 東アジア海域交流と仲介者</li> <li>9. 倭寇的状况と仲介地（1）</li> <li>10. 倭寇的状况と仲介地（2）</li> <li>11. 明清交替期の海域世界と仲介者</li> <li>12. 清代海上貿易の展開と仲介者</li> <li>13. 海域近代の始まりと仲介者</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
<p>前期・後期ともに履修することが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系63

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 近現代中国									
【授業の概要・目的】											
グローバル化が進展する現在、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割はますます大きくなっている。例えば、企業がある地域に進出する場合、現地の言語・事情に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わるであろう。本講義はこうした仲介者の意義について、近現代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者や現在の仲介者と比較してみたい。											
【到達目標】											
近現代における仲介者の役割を把握したうえで、前近代や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. アヘン貿易と仲介者</li> <li>3. 開港場貿易：外国人商人と買弁（1）</li> <li>4. 開港場貿易：外国人商人と買弁（2）</li> <li>5. 苦力貿易と客頭（1）</li> <li>6. 苦力貿易と客頭（2）</li> <li>7. 開港場貿易の発展と行棧（1）</li> <li>8. 開港場貿易の発展と行棧（2）</li> <li>9. 外国籍華人と在華外国領事の役割（1）</li> <li>10. 外国籍華人と在華外国領事の役割（2）</li> <li>11. 工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡</li> <li>12. 前近代東南アジア海域の仲介者</li> <li>13. 前近代地中海世界の仲介者</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
前期・後期ともに履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 教授 西山 伸			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代日本大学史									
【授業の概要・目的】											
本講義では、1950年代から現在までの日本の大学の歴史を主な対象とする。現在の大学制度のもととなった戦後改革を踏まえ、高度経済成長、大学紛争、そして近年の大学改革までの時期における大学について、資料にもとづき実証的に検証する。その上で、戦後日本にとって大学はどのような役割を果たしてきたのか、現在の大学が歴史的にどのように形成されたのか、などについて考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後改革から現在に至る大学の形成と展開を資料にもとづき理解する。</li> <li>・現代日本社会における大学の役割について歴史的視点に立って考察する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
第1回	ガイダンス										
第2回	戦後高等教育改革										
第3回	1950年代の大学と学生										
第4回	高度経済成長期の大学										
第5回	戦後学生運動の展開										
第6回	大学紛争(1)										
第7回	大学紛争(2)										
第8回	大学紛争(3)										
第9回	高等教育の計画的整備										
第10回	大学紛争後の学生										
第11回	規制緩和路線と大学改革の開始										
第12回	大学改革の展開										
第13回	国立大学法人化										
第14回	現在の大学										
第15回	まとめ(フィードバック)										
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
評価方法：毎回の授業時に提出されるコメントとレポート試験の成績により評価する。 評価基準：授業の内容を理解した上で、受講者独自の見解を示すこと。											
【教科書】											
使用しない											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

---

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で指定する文献・史料等に予習・復習として目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 佐藤 卓己			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学概論									
[授業の概要・目的]											
<p>メディア論を中心に、現代社会における情報とコミュニケーションの変容を考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」</p> <p>マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>											
[到達目標]											
メディア学の基本をなす比較メディア論の立場がどのように形成されたかを理解し、その視点からメディア史を吟味し、現代社会の合意形成システムを考察することができるようになる。											
[授業計画と内容]											
第1-2回 メディア社会とは何か 第3回 メディア史としてのコミュニケーション研究 第4回 メディア都市の成立 第5章 出版資本主義と近代精神 第6回 大衆新聞の成立 第7回 視覚人間の国民化 第8回 宣伝のシステム化と動員のメディア 第9回 ラジオとファシスト的公共性 第10回 トーキー映画と総力戦体制 第11回 テレビによるシステム統合 第12回 情報化の未来史 第13回 脱・情報社会へ 第14回 総論・試験 第15回 フィードバック											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 現代史学(特殊講義)(2)

### [履修要件]

メディアに関心があり、情報への感度が高いこと。

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

定期試験（80％）とコメントペーパーなど（20％）。定期試験の方式については、講義中に説明する。

### [教科書]

佐藤卓己『現代メディア史 新版』（岩波テキストブックス・1998）ISBN: 9784000289207（中国からの留学生は佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学経典教材中文版・ただし旧版の翻訳）北京大学出版社2004年を利用してよい。）

### [参考書等]

（参考書）

佐藤卓己『ファシスト的公共性 総力戦体制のメディア学』（岩波書店）ISBN:9784000612609（システム社会化とメディア研究の成立史を論じた著作。）

佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）ISBN: 9784000283229（メディア史＝メディア論の発想法について、参照のこと。）

佐藤卓己『メディア社会』（岩波新書）ISBN:9784004310228（サブ・テキストとして一般向けに書かれたもの）

（関連URL）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>(メディア文化論研究室HP)

<https://satotakumi60.wixsite.com/mysite>(佐藤卓己研究室)

### [授業外学習（予習・復習）等]

テキスト『現代メディア史 新版』の各章、第一節、第二節を読んで授業に出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

メディア文化学の初学者は、佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』（岩波新書）を、歴史学の初学者は、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）を、事前に読んでおくことが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代中央アジアにおける歴史の見直しの諸相									
【授業の概要・目的】											
この授業では、旧ソ連中央アジア、特にウズベキスタンを対象として、ソ連時代のペレストロイカによる自由化、さらに独立とソ連解体を契機として進行した、歴史の見直しの諸相を検討する。それを通じて、現代中央アジア理解を深めるとともに、多様な歴史叙述のあり方についての認識を深めることをねらいとする。											
【到達目標】											
中央アジアの近現代（帝政ロシア支配期～ソ連期～ソ連解体・独立から現代まで）の歴史の流れと、ソ連時代から現代に至るまでの中央アジアにおける基本的な民族観・歴史観および歴史記述の特徴を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の予定に従い、講義を行う。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 旧ソ連中央アジアという地域の概要（第1-2週）</li> <li>* 民族史の記述（第3-4週）</li> <li>* ペレストロイカと歴史の見直し（第5-7週）</li> <li>* 独立後の新しいナショナリズムと歴史研究（第8-9週）</li> <li>* 評価の逆転（ティムール、ジャディード運動、バスマチ運動）（第10-12週）</li> <li>* 新しい正史（第13-14週）</li> <li>* まとめ（第15週）</li> </ul>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点30%、期末のレポート70%の割合で評価を行う。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

宇山智彦(編著) 『中央アジアを知るための60章』(明石書店) ISBN:978-4-7503-3137-9 (中央アジア研究の入門書)

小松久男 『革命の中央アジア あるジャディードの肖像』(東京大学出版会) ISBN:3-13-025027-2 (ロシア革命期の中央アジアに関する必読文献)

宇山智彦 『「カザフ民族史再考 歴史記述の問題によせて」 『地域研究論集』 Vol.2, No. 1 (1999)』 (国立民族学博物館地域研究企画交流センター) (ソ連中央アジアの歴史記述の基本理念を論じた論文)

帯谷知可 『「英雄の復活 現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール」 酒井啓子・臼杵陽編 『イスラーム地域の国家とナショナリズム』』 (東京大学出版会) ISBN:4-13-034185-5 (ソ連解体後の中央アジアナショナリズムと歴史の見直しを論じた論文)

帯谷知可編 『ウズベキスタンを知るための60章』(明石書店) ISBN:9784750346373 (ウズベキスタン地域研究の入門書)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業期間中に、各回の講義内容を復習するとともに、参考書等としてあげている文献を読み、より深い理解と考察に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

授業でも紹介しますが、中央アジア近現代史に関する文献をできる限り多く読んでください。連絡の必要がある場合はこちらへ [obiya\[at\]cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:obiya[at]cseas.kyoto-u.ac.jp) ([AT]を@に替えてください)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系67

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イギリスの1960年代									
【授業の概要・目的】											
<p>「スウィング・シクスティーズ」などとも評されるイギリスの1960年代は、ビートルズとミニ・スカートが象徴的なアイテムとなるように、文化革命が花開いた時代として知られる。「豊かな社会」の到来を前提に、若者の台頭と性的解放が進み、広範囲にわたる芸術的革新が実現されて、イギリスは世界的な注目を集める存在となった。しかし、秩序と権威の崩壊が始まり、道徳的な相対主義がもてはやされた時代として、1960年代をネガティブに把握する議論も根強い。この授業では、1960年代のさまざまな動向の中に後のサッチャリズムの歴史的前提を見出すことを試みる。</p>											
【到達目標】											
イギリスの1960年代を、国際的な動向も視野に収めながら、現代史の大きな流れの中で把握する能力を身に着けること。											
【授業計画と内容】											
(1)さまざまな1960年代論(1回) (2)「豊かな社会」という前提(1回) (3)若者の台頭(1回) (4)文化革命の諸相(音楽、ファッション、映画、アート、ドラッグ、等)(2回) (5)ビートルズとロックの覇権(2回) (6)「許容する社会」の到来(1回) (7)性的解放(1回) (8)1968年(1回) (9)人種問題(1回) (10)モラリズムの反撃(2回) (11)二大政党の1960年代(1回) (12)総括(1回)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポートによる評価を基本とする。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない  
プリントを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

以下の文献を参照すること。

長谷川貴彦『イギリス現代史』岩波新書、2017年。

セリーナ・トッド(近藤康裕訳)『ザ・ピープル：イギリス労働者階級の盛衰』みすず書房、2016年。

ピーター・クラーク(西沢保ほか訳)『イギリス現代史、1900 - 2000』名古屋大学出版会、2004年。

**(その他(オフィスアワー等))**

通年の受講が望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		サッチャー時代のイギリス									
【授業の概要・目的】											
今年度の授業は昨年度後期の「サッチャリズム序説」の増補版である。イギリス現代史上の決定的な転換期といわれるサッチャー時代（1979～90年）はイギリス社会をいかに変え、その変化は今日のイギリスをいかに規定しているのか、経済、社会保障、労使関係、外交、といった主要な政策領域に加え、サッチャーが折に触れて強調したモラルの改革をも視野に収めて検討することが主たる課題となる。											
【到達目標】											
サッチャリズムの時代がいかなる意味でイギリス現代史上の転換期であったか、第二次世界大戦から今日に至る長いパースペクティブの中で把握する能力を身に着けること。											
【授業計画と内容】											
(1)マーガレット・サッチャーの形成（1回） (2)「コンセンサス」批判（1回） (3)モラルの改革（2回） (4)経済政策（2回） (5)労使関係（2回） (6)福祉国家の解体？（2回） (7)アメリカとヨーロッパ（2回） (8)権威主義的リーダーシップ（1回） (9)サッチャー以降のサッチャリズム（1回） (10)総括（1回）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポートによる評価を基本とする。											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 現代史学(特殊講義)(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学習(予習・復習)等]

以下の文献を参照すること。

オーウェン・ジョーンズ(依田卓巳訳)『チャヴ：弱者を敵視する社会』海と月社、2017年。  
セリーナ・トッド(近藤康裕訳)『ザ・ピープル：イギリス労働者階級の盛衰』みすず書房、2016年。  
ピーター・クラーク(西沢保ほか訳)『イギリス現代史、1900 - 2000』名古屋大学出版会、2004年。  
長谷川貴彦『イギリス現代史』岩波新書、2017年。

### (その他(オフィスアワー等))

通年の受講が望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア帝国とジョージア(グルジア)									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀後半から1905年までの帝政ロシア支配下のザカフカス(トランスコーカサス)史を、グルジア(ジョージア)中心に概観する。</p> <p>ロシア人がチェチェン人やグルジア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。ザカフカスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出し、それはグルジア人などの現地住民にもフィードバックされた。治安の悪さで悪名高いザカフカスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では帝国とグルジア人の関わりを主軸に、19世紀後半におけるナショナリズムと社会主義の相関関係について考えたい。</p>											
【到達目標】											
ロシア帝国に関する基本的知識を習得し、帝国と植民地についての歴史的イメージを会得する。											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクション 第2,3回：「半アジア人」 第4,5回：露土戦争 第6,7回：「ムスリム・グルジア人」の文字と宗教 第8,9回：油田とマンガン鉱山 第10,11回：マルクス主義サークル 第12,13回：義賊と革命 第14回：1905年 第15回：おわりに											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系70

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア革命とジョージア(グルジア)									
【授業の概要・目的】											
<p>南カフカスは「東部戦線」と並んでロシア帝国の最前線だった。ジョージア(グルジア)の社会主義者やアルメニアやアゼルバイジャンの民族主義者のほとんどは、第一次世界大戦開戦に際し、帝国の戦争に全面協力した。帝国の中心における革命は彼らにとって予期せぬ事件だったが、さまざまな構想を一気に開花させる力となった。本講義では南カフカスにおける戦争と革命の経緯をジョージア中心にたどりつつ、ロシア革命なるものの影響力を再考したい。</p>											
【到達目標】											
<p>第一次世界大戦とロシア革命についての基礎的知識を習得するとともに、帝国・戦争・革命に対する歴史的洞察力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション  第2,3回：ロシア1905年革命、イラン立憲革命、青年トルコ人革命  第4,5回：バルカン戦争と戦争準備  第6回：敵性国民としてのドイツ人  第7,8回：カフカス戦線と「アルメニア人問題」  第9,10回：社会主義者の戦争  第11回：ロシア革命とカフカス  第12回：ジョージア民主共和国の成立  第13,14回：民主共和国と地域問題  第15回：おわりに</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。</p>											
【教科書】											
<p>プリントを配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書)  授業中に紹介する</p>											
【授業外学習(予習・復習)等】											
<p>各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>オフィスアワーは、月曜3限とする。</p>											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

## 現代文化学系71

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 江田 憲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目											
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、中国近現代、とくに共産党史を対象領域とし、その理論闘争の歴史、それが現代の社会状況といかなる連続性を持つのかについて考察する。</p> <p>中国共産党の歴史過程について史料と研究にもとづいた批判的理解を可能にすることが目的である。</p> <p>なお、講義形式の授業のほか、適宜、受講者が従来の研究論文を要約して受講者が報告する発表形式の授業をも行う。</p>											
【到達目標】											
東アジア、とくに中国の歴史過程と現状について、資料と先行研究にもとづいて考察する視座と方法を獲得し、批判的に理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス 中国共産党史と「理論」 第2回 中国社会主義の源流 五・四上海ストライキとアナルコ・サンジカリズム 第3回 陳独秀の社会主義受容とアナボル論争(1) 第4回 陳独秀の社会主義受容とアナボル論争(2) 第5回 中国国民革命論の展開 瞿秋白の「一回革命論」の問題性 第6回 中国共産党史へのスターリン主義の登場 瞿秋白の例 第7回 中国共産党史の党内抗争(1) 糾弾用語としての「路線」の登場 第8回 中国共産党史の党内抗争(2) 党内粛清と毛沢東独裁 第9回 中国共産党史における都市と農村(1) 「都市中心論」は存在したか？ 第10回 中国共産党史における都市と農村(2) 李立三と毛沢東の戦略 第11回 中国共産党の党内民主 意思決定における論争を中心に 第12回 中国革命におけるトロツキズム運動 陳独秀の思想と行動 第13回 陳独秀の「最後の見解」をめぐって 第14回 中国共産党理論闘争史序説 第15回 中国共産党理論闘争史総括											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席状況とレポート。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

---

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

あらかじめ配布する資料がある場合、読解の上出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 江田 憲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国近現代史「史料」研究									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、東アジア、とくに中国の政治制度や思想を対象領域とし、研究論文・研究書、一次史料を素材としたゼミ形式の授業を行う。</p> <p>先行研究の取り扱いや一次史料の収集・利用についての必要な陶冶を行い、研究発表の訓練を行うことが目的である。</p>											
【到達目標】											
現代東アジアの諸問題を歴史的な視点から批判する視座を獲得し、国境を越えた問題意識の共有を可能とする端緒を構築する。											
【授業計画と内容】											
<p>ガイダンス</p> <p>中国現代政治史概説</p> <p>中国現代政治史についての研究紹介</p> <p>研究論文・研究書を素材としたゼミ</p> <p>研究論文・研究書を素材としたゼミ</p> <p>研究論文・研究書を素材としたゼミ</p> <p>研究論文・研究書を素材としたゼミ</p> <p>一次史料を素材としたゼミ</p> <p>一次史料を素材としたゼミ</p> <p>一次史料を素材としたゼミ</p> <p>一次史料を素材としたゼミ</p> <p>一次史料を素材としたゼミ</p> <p>一次史料を素材としたゼミ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席状況とレポート。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

あらかじめ配布する資料を読解した上で出席すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系73

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 塩出 浩之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		新聞から考える日本・東アジアの近代									
[授業の概要・目的]											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアにおける新聞に関する史料・文献を読み、日本・東アジアの近代、特に公共圏の形成・変容について考える。											
[到達目標]											
新聞を研究対象として考察することを通じて、日本の近現代史を世界史の一部として捉える思考方法を身につけるとともに、日本近現代史研究における史料読解の基礎的な能力を養う。											
[授業計画と内容]											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアで発行された新聞を史料として読み、あわせてジャーナリストに関する史料や新聞の歴史に関する学術書や論文を読む(全15回)。参加者の報告および討論を主として進行する。											
フィードバックについては授業時に説明する。											
[履修要件]											
できるだけ、前期・後期を通して参加すること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
報告、討論への参加等の平常点およびレポートによって評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業で用いるテキスト・史料を必ず読了しておくこと。報告者以外も、質問などを準備して討論に参加することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 現代文化学系74

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 塩出 浩之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		新聞から考える日本・東アジアの近代									
[授業の概要・目的]											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアにおける新聞に関する史料・文献を読み、日本・東アジアの近代、特に公共圏の形成・変容について考える。											
[到達目標]											
新聞を研究対象として考察することを通じて、日本の近現代史を世界史の一部として捉える思考方法を身につけるとともに、日本近現代史研究における史料読解の基礎的な能力を養う。											
[授業計画と内容]											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアで発行された新聞を史料として読み、あわせてジャーナリストに関する史料や新聞の歴史に関する学術書や論文を読む(全15回)。参加者の報告および討論を主として進行する。											
フィードバックについては授業時に説明する。											
[履修要件]											
できるだけ、前期・後期を通して参加すること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
報告、討論への参加等の平常点およびレポートによって評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業で用いるテキスト・史料を必ず読了しておくこと。報告者以外も、質問などを準備して討論に参加することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 現代文化学系75

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 国際文化学研究所 教授 長 志珠絵			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時間	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本近代における「戦争」と文化をめぐる諸問題									
【授業の概要・目的】											
19-20世紀の近代国民国家は「国民」形成の中核に「戦争」をめぐる文化装置を必要とした。またこの問題は「国民」をめぐる文化政治と密接に関係するため、植民地支配や総力戦体制下での歴史的变化に着目する作業とともに、戦「後」への射程も必要となってくる。戦争認識をめぐる文化研究、社会史研究、ジェンダー研究などの方法論や、帝国と戦後を架橋する空襲・防空研究等、典型的な歴史事象に言及しながら、19世紀末から20世紀半ばにいたる戦争と文化をめぐる諸問題を考察する。											
【到達目標】											
日本近代における戦争と文化をめぐる研究上の成果や論点、史料状況について具体的な知識を獲得するとともに、主に文献・歴史研究としての方法や分析視点を習得することで、近い過去の論争的課題についての考察力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
*2以下の各項目について2-3回に分けて論じる											
1 導入-戦争の想起と文化をめぐる研究動向											
2 「国民化」の時代と「戦争」メディア											
3 戦争記憶の展示と同時代教育											
4 「国民」をめぐる境界の政治											
5 防空言説と国民像の変容											
6 戦後と戦争経験・戦争像・記録											
フィードバックについては授業時に説明する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
コメント紙回答（複数回、合計50点）と定期試験またはレポート（50点）により評価する。											
【教科書】											
授業中に指示するほか、適宜史料レジュメ等を配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

---

**【授業外学習（予習・復習）等】**

各自、授業中に指示した関連文献や配布史料等に目を通しておくこと

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 福家 崇洋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本社会運動史									
【授業の概要・目的】											
日本の社会運動史について講義を行う。時期は、明治期から敗戦後までである。本講義の目的は、近現代日本の社会運動に関する通史的な知識を提示することである。あわせて、日本史・日本思想史において社会運動とその思想が果たした役割を理解することを目指す。本講義への参加によって、日本近現代史をより複合的・重層的に捉える視点を育んでくれるとありがたい。											
【到達目標】											
日本近現代史における社会運動の意義を理解し、基本的な知識を習得することができる。											
【授業計画と内容】											
1 ガイダンス 2 自由民権運動 3 「初期社会主義」と労働運動 4 アジア主義と対外硬運動 5 2つの戦争と「大正デモクラシー」 6 コミンテルンの結成と日本社会主義運動 7 国家改造運動 8 無産政党と社会民主主義の形成 9 総力戦とクーデター未遂事件 10 満洲事変と「転向」 国家社会主義の台頭 11 昭和維新運動 テロと叛乱未遂 12 天皇機関説事件と宗教運動 13 反ファシズム統一戦線 14 占領下の民主化運動 15 まとめ なお、授業の進行速度により内容に変更あり											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業中の小レポートと期末レポート、平常点等により総合的に判断する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

各回のテーマに関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		島根大学法文学部 名誉教授 竹永 三男			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「行き倒れ」の近代史 近代日本における行旅病人・行旅死亡人に関する歴史的研究									
【授業の概要・目的】											
<p>一般に「行き倒れ」と言われる行旅病人・行旅死亡人の救護・取扱については、120年前の明治32年（1899）法律第93号「行旅病人及行旅死亡人取扱法」で規定されている。同法は、若干の文言修正を経て今も現行法として機能しているが、その第一条では、行旅病人・行旅死亡人について、「此ノ法律ニ於テ行旅病人ト称スルハ歩行ニ堪ヘサル行旅中ノ病人ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキ者ヲ謂ヒ行旅死亡人ト称スルハ行旅中死亡シ引取者ナキ者ヲ謂フ」と定義している。</p> <p>本講義の題目である「『行き倒れ』の近代史」とは、この行旅病人・行旅死亡人を歴史研究の対象として正面から取り上げ、近代日本における「行き倒れ」をめぐる問題群 即ち、その実態と属性、市町村における救護・取扱の実際、市町村の救護責任等を規定した法制度の構造とその変遷、「行き倒れ」を生み出す日本社会の特質等々の解明を、全国の県庁文書・町村役場文書の具体的分析によって行うというものである。講義では、その分析の実際を関係史料を提示しつつ具体的に提示する。また、受講生にも、講義で提示する関係史料に基づいて、行旅病人・行旅死亡人に関する分析を行ってもらう。</p> <p>以上のことにより、「行き倒れ」という個別的・具体的な事象の分析を通して、日本の近代社会の歴史的特質を究明するという近代史研究の方法とその実際の理解に至ることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>「行き倒れ」を素材とした日本近現代史研究、とくに近現代の日本社会と法制度の歴史的研究の視角と方法、「行き倒れ」関係史料とその分析の実際を理解し、実際にぶんせきできるようになることを到達目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画は次のとおりとするが、実際の授業では、集中講義という授業形態を活かして、各主題を適宜統合・分割して講述する。</p> <p>第1講 はじめに 「行き倒れ」をめぐる問題群とその歴史的研究の課題</p> <p>第2講 「行き倒れ」関係史料の検討 府県行政文書・市町村役場文書・政府文書・統計資料</p> <p>第3～6講 近現代の日本における行旅病人救護法制の成立と変遷</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)近世における「行き倒れ」対応</li> <li>2)「行旅病人取扱規則」「行旅死亡人取扱規則」「行旅病人及行旅死亡人取扱法」</li> <li>3)府県における「行旅病人救護・行旅死亡人取扱規則」の成立と変遷</li> <li>4)東京府における「行き倒れ」対応規則の成立と展開</li> </ol> <p>第7～12講 近代日本における「行き倒れ」の実態とその救護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)行旅病人・行旅死亡人の統計的検討</li> <li>2)行旅病人の「逋送」「行旅病人及行旅死亡人取扱法」以前の行旅病人救護</li> <li>3)日露戦後の福島県における「行き倒れ」の様相とその救護</li> <li>4)市町村役場文書にみる「行き倒れ」とその救護</li> <li>5)女性と子どもの「行き倒れ」</li> <li>6)「行き倒れ」人とその病</li> </ol> <p>第13講 「行き倒れ」の救護・対応法制の比較史 植民地下の朝鮮とイングランド</p>											
現代史学(特殊講義)(2)へ続く											

## 現代史学(特殊講義) (2)

第14講 おわりに 「行き倒れ」からみた日本社会の歴史的特質  
第15講 受講生による「行き倒れ」分析の発表

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

- 1) 受講生が少人数の場合  
中間レポートとその発表 (50点)  
最終レポートとその発表 (50点)
  - 2) 受講生が多数の場合  
中間レポート (40点)  
最終レポート (60点)
- いずれも、講義で提示した分析視角・方法 (の批判的検討) に基づいて、受講生が取り上げた史料を精確に分析し、問題を掴み出しているかを評価する。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)  
授業題目に関連する主題について、講義担当者 (竹永) が発表している研究論文を参考論文とする。  
論文題目・掲載雑誌等はCiNii等で確認すること。

### 【授業外学習 (予習・復習) 等】

授業で配付する史料を事前・事後に検討すること

### (その他 (オフィスアワー等))

- 1) 受講生にはレジュメに加え、資史料を配布するが、初回授業の出席者数によりその後の授業用の印刷部数を確定するので、初回授業には必ず出席すること。
- 2) 集中講義のためオフィスアワーは特に設けないので、質問等は各回の授業後に行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系78

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党史資料選読									
[授業の概要・目的]											
中国現代史の史料一般についての基本的な知識を得たうえで、中国共産党史に関する中国語資料を精読する。中国共産党史に関する資料を読むことによって、中国革命に対する理解を深める。											
[到達目標]											
中国語資料・中国共産党史資料の扱い方、特徴などを理解し、中国現代史を研究するにあたっての史料の読解、操作能力の向上を図る。											
[授業計画と内容]											
中国共産党史関連資料のうち、『建党以来重要文献選編』から関連文献を選んで精読する(全15回)。具体的には、党の諸会議で決議された文書、党中央から各組織に対して出された指示など、主として政治運動に関する文献を取り上げる。必要に応じてそれら文書の背景となるコミンテルン資料も読む。なお、史料の内容や背景を理解するには、一定の中国革命史・現代史にかんする全般的基礎知識が必要なので、講義形式の解説を必要に応じて加えることとする。 初回と2回目の授業で史料について解説を行った後、3回目以降は担当者を決めて史料を読み進めていく予定である。なお、授業の進捗と受講者の状況によって、上記の予定は変更することがある。											
[履修要件]											
現代中国語の資料をもちいるので、中国語についての理解力・読解力(第二外国語履修程度)が履修要件となる。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点。											
[教科書]											
使用しない テキストはコピーして授業の際に配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
指定部分の日本語訳											
(その他(オフィスアワー等))											
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、十分な予習が必要である。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 現代文化学系79

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党史資料選読									
[授業の概要・目的]											
中国現代史の史料一般についての基本的な知識を得たうえで、中国共産党史に関する中国語資料を精読する。中国共産党史に関する資料を読むことによって、中国革命に対する理解を深める。											
[到達目標]											
中国語資料・中国共産党史資料の扱い方、特徴などを理解し、中国現代史を研究するにあたっての史料の読解、操作能力の向上を図る。											
[授業計画と内容]											
中国共産党史関連資料のうち、『建党以来重要文献選編』から関連文献を選んで精読する(全15回)。具体的には、党の諸会議で決議された文書、党中央から各組織に対して出された指示など、主として政治運動に関する文献を取り上げる。必要に応じてそれら文書の背景となるコミンテルン資料も読む。なお、史料の内容や背景を理解するには、一定の中国革命史・現代史にかんする全般的基礎知識が必要なので、講義形式の解説を必要に応じて加えることとする。 初回と2回目の授業で史料について解説を行った後、3回目以降は担当者を決めて史料を読み進めていく予定である。なお、授業の進捗と受講者の状況によって、上記の予定は変更することがある。											
[履修要件]											
現代中国語の資料をもちいるので、中国語についての理解力・読解力(第二外国語履修程度)が履修要件となる。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点											
[教科書]											
使用しない テキストはコピーして授業の際に配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
指定部分の日本語訳											
(その他(オフィスアワー等))											
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、十分な予習が必要である。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アメリカ外交文書演習									
【授業の概要・目的】											
現代史を考える上で、アメリカ合衆国の動向は（好悪にかかわらず）きわめて重要である。さいわい、そのアメリカの重要な外交文書の重要なものは、刊本などの形で公刊されており、比較的容易にアクセスできる。（これは、アメリカの尊敬すべき文化のひとつでもある。）本演習では、アメリカの対外政策の形成や対外的行動の実際を、公刊されたアメリカ外交文書集に収録された一次史料を読解することを通じて分析する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ外交文書の種類や所在について基本的な知識を修得し、自らの関心に沿って文書を探索できるようになる。</li> <li>・アメリカ外交文書の読み方や研究への活用の仕方を修得する。</li> <li>・上記を通じて、一次史料から歴史を考察し歴史的分析を展開するための基本的な知識と技術（そして願わくはセンス）を修得する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>下記のアメリカ外交文書集の日本関係のセクションの後半（pp.1265-1398）を読み進めていく。 Foreign Relations of the United States, 1950, Volume VI: East Asia and the Pacific. 全15回の授業で、毎回、10ページをめどに読み進めていく。 具体的な授業の進め方や報告方法は、受講者の人数や顔ぶれを見て決定する</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末試験は行わず、平常点で評価する。											
【教科書】											
<p>上記のアメリカ外交文書集を各自で準備すること。 刊本は、文学部を含め、学内に複数の所蔵あり。ウィスコンシン大デジタル・アーカイブでPDF版を、アメリカ国務省歴史課（Office of Historian, Department of State）でテキスト版を、それぞれ無料で入手可能。</p>											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

毎回10ページ程度読み進めるので、受講者は全員当該箇所を読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系81

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アメリカ外交文書演習									
【授業の概要・目的】											
現代史を考える上で、アメリカ合衆国の動向は（好悪にかかわらず）きわめて重要である。さいわい、そのアメリカの重要な外交文書の重要なものは、刊本などの形で公刊されており、比較的容易にアクセスできる。（これは、アメリカの尊敬すべき文化のひとつでもある。）本演習では、アメリカの対外政策の形成や対外的行動の実際を、公刊されたアメリカ外交文書集に収録された一次史料を読解することを通じて分析する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ外交文書の種類や所在について基本的な知識を修得し、自らの関心に沿って文書を探索できるようになる。</li> <li>・アメリカ外交文書の読み方や研究への活用の仕方を修得する。</li> <li>・上記を通じて、一次史料から歴史を考察し歴史的分析を展開するための基本的な知識と技術（そして願わくはセンス）を修得する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>前期に引き続き、下記のアメリカ外交文書集の日本関係のセクションの後半（pp.1265-1398）を読み進めていく。日本関係セクション終了後は、アジア関係のセクションに進む予定。</p> <p>Foreign Relations of the United States, 1950, Volume VI: East Asia and the Pacific.</p> <p>全15回の授業で、毎回、10ページをめどに読み進めていく。</p> <p>具体的な授業の進め方や報告方法は、受講者の人数や顔ぶれを見て決定する。</p>											
【履修要件】											
必須ではないが、前期の同名科目を受講していることが望ましい。（授業は、前期の受講者を前提として進める。）											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末試験は行わず、平常点で評価する。											
【教科書】											
<p>上記のアメリカ外交文書集を各自で準備すること。</p> <p>刊本は、文学部を含め、学内に複数の所蔵あり。ウィスコンシン大デジタル・アーカイヴでPDF版を、アメリカ国務省歴史課（Office of Historian, Department of State）でテキスト版を、それぞれ無料で入手可能。</p>											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

毎回10ページ程度読み進めるので、受講者は全員当該箇所を読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学系82

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 特定助教 富永 望			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		屋良朝苗日誌を読む									
[授業の概要・目的]											
屋良朝苗日誌の輪読を行う。手書きの日記という一次史料の読解に取り組むことで、歴史上の人物を生身の人間として見直すとともに、史料から事実を読み取る力を身につける。また、高校までの歴史の授業で習う機会に乏しい沖縄の現代史について理解を深める。											
[到達目標]											
1．一次史料の読解能力 2．沖縄戦後史の理解 3．人物・事件を確定し、わかりやすくまとめる能力											
[授業計画と内容]											
初回はガイダンスを行い、輪読の担当を決定する。2回目以降は実際に輪読を進める。自分の担当部分だけではなく、他の人の担当部分も予習してくることが望ましい。また、担当部分で初出の人名や事件があった場合は調べてきて、当日説明すること。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（輪読での報告内容、授業内での発言回数など）											
[教科書]											
テキストは授業中にコピーを配布する											
[参考書等]											
（参考書） 櫻澤誠 『沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』（中央公論新社）											
[授業外学習（予習・復習）等]											
他の受講者の担当分も読んでおくこと。沖縄の近現代史について予習しておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 現代文化学系83

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 特定助教 富永 望			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		屋良朝苗日誌を読む									
[授業の概要・目的]											
屋良朝苗日誌の輪読を行う。手書きの日記という一次史料の読解に取り組むことで、歴史上の人物を生身の人間として見直すとともに、史料から事実を読み取る力を身につける。また、高校までの歴史の授業で習う機会に乏しい沖縄の現代史について理解を深める。											
[到達目標]											
1．一次史料の読解能力 2．沖縄戦後史の理解 3．人物・事件を確定し、わかりやすくまとめる能力											
[授業計画と内容]											
初回はガイダンスを行い、輪読の担当を決定する。2回目以降は実際に輪読を進める。自分の担当部分だけではなく、他の人の担当部分も予習してくることが望ましい。また、担当部分で初出の人名や事件があった場合は調べてきて、当日説明すること。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（輪読での報告内容、授業内での発言回数など）											
[教科書]											
テキストは授業中にコピーを配布する											
[参考書等]											
（参考書） 櫻澤誠 『沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』（中央公論新社）											
[授業外学習（予習・復習）等]											
他の受講者の担当分も読んでおくこと。沖縄の近現代史について予習しておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		国際日本文化研究センター 松田 利彦 研究部 教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		韓国語資料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>朝鮮近現代史を研究テーマとする学生や、それ以外の分野の専攻でも韓国語の論文や資料を使いたいという学生のために、資料収集や学術論文の読解ができるようお手伝いをします。外国語の資料を使いこなすのは大変なことです。段階的にその技術を身につけられるように、授業は大きく3つのパートに分かれています。インターネットを含む朝鮮近代史関係資料探しのためのツールについて講義します。近年の植民地期朝鮮史研究の動向を理解できる概説的な論文(韓国語)を講読します。受講生の関心に応じて、朝鮮史に関わる学術論文や一次史料(韓国語)を精読します。昨年度は、論文「北朝鮮帰国事業の再照明」、植民地時代に投獄された文学者の日記、京城帝国大学教授の新聞投稿記事の抜粋を読みました。</p>											
【到達目標】											
<p>1) インターネットを含む朝鮮近代史関係史料の調べ方を身につけ、自ら資料探索ができるようになります。</p> <p>2) 韓国語論文を読むための基礎的な知識を得ることができます。</p> <p>3) 朝鮮近現代史についての一次史料を精読することによって、資料から歴史像を構築するトレーニングを積むことができます。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1回目 朝鮮近代史についての概説講義</p> <p>2回目 朝鮮近代資料論の講義</p> <p>3～6回目 近年の植民地期朝鮮史研究の動向を論じた韓国語論文の講読</p> <p>7～15回目 韓国語で書かれた論文・自叙伝・小説・日記・新聞などの一次史料の精読</p>											
【履修要件】											
<p>韓国語の学習歴が求められます。授業中に指示しますが、与えられた資料を読むだけでなく、資料の背景について自分で調べてもらって10分程度のミニ報告をしてもらうこともあります。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>論文講読・資料精読の平常点により成績評価をおこないます。</p>											
----- 現代史学(演習II) (2)へ続く -----											

現代史学(演習II) (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する  
毎回プリントを配布して参考文献を紹介します。

**[授業外学習(予習・復習)等]**

講読・精読については予習を必須とする。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 客員准教授 山本 昭宏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時間	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化からみる集合的 記憶 と集合的 夢									
【授業の概要・目的】											
<p>私たちの社会は、多様な方法で過去を記憶し、未来を夢見ている。過去を記憶し、未来を夢見るといふ行為を方向付けるものの一つとして、メディア文化を挙げることができる。マスメディアの報道だけでなく、広く共有された映画・マンガ・文学などは、それぞれの時代における集合的 記憶 や集合的 夢 について、その一端を分析する有効な手がかりになるだろう。</p> <p>この授業では、まず二回目の授業で講師が特定のメディア文化を取り上げてそれを分析してみせる。それを踏まえた上で、三回目以降は、受講生が順番に報告し・議論する。取り上げるメディア文化は、一回目の授業で決める。各自、個人報告をしてもらうが、受講生の数によってはグループ報告に変更することもあり得る。</p>											
【到達目標】											
<p>近現代の日本社会における、戦争（戦場、原爆、空襲）やビックイベント（オリンピックや博覧会）、あるいは日常生活（夢見られた「豊かな生活」）などについて、集合的 記憶 と集合的 夢 の動態を理解する。</p> <p>具体的には、歴史学と社会学の先行研究の理解と、文献資料調査・資料読解を通じて、批判的思考能力を養うとともに、個人報告（グループ報告）を通して、プレゼンテーション能力を高める。加えて、共同討議で発言することで、「質問する力」や「コメントする力」を養う。したがって、「自分の報告が終われば出席しない」というような態度は認められない。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとテーマ設定、報告順の決定（1回目）</li> <li>2 講師による講義 報告のポイント共有（2回目）</li> <li>3 受講生による報告と共同討議 <ol style="list-style-type: none"> <li>3～6回目：戦争の 記憶</li> <li>7～10回目：原爆の 記憶</li> <li>10～11回目：原子力の 夢</li> <li>12～13回目：宇宙開発の 夢</li> <li>14～15回目：豊かな生活の 夢</li> </ol> </li> <li>4 議論の総括（15回目）</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- 現代史学(演習II) (2)へ続く -----											

## 現代史学(演習II) (2)

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点と期末レポートにより総合的に判断する。  
なお、平常点は授業内の報告と共同討議でのコメントで評価する。

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学習(予習・復習)等]

個人報告(グループ報告)の順番が決まったあとは、担当するメディア文化(映画・マンガ・文学)を分析するだけでなく、その作品が当時の社会でどのように受け止められたのかを調査してもらう。  
そのため、大学図書館での予習が必須である。詳細は授業で指示する。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 客員准教授 山本 昭宏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		映像表現・映像資料からみる近現代の日本社会									
【授業の概要・目的】											
<p>映画・アニメーション・ドキュメンタリー、TVドラマなどの映像表現・資料は近現代社会を知るための資料でもある（近年は個人所蔵のホームビデオなどの資料的価値も高まっている）。この授業では、戦後日本社会に焦点を絞り、多様な映像表現・資料を時代別に取り上げることで、戦後史を理解する。映像表現から、従来言われている通説を理解すると同時に、通説に修正の余地を見出す批判的な読解と調査を求める。</p> <p>この授業では、まず二回目の授業で講師が特定の映像表現を取り上げてそれを分析してみせる。それを踏まえた上で、三回目以降は、受講生が順番に報告し・議論する。</p> <p>取り上げる映像表現・資料は、一回目の授業で決める（一回目に出られない者は二回目に決める）。各自、個人報告をしてもらうが、受講生の数によってはグループ報告に変更することもあり得る。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業で求められていることは、映像表現・資料を選び、観るだけではない。選んだ映像について、先行研究・制作者たちの意図・当時の社会での評価を調べてもらう。批判的思考と資料の収集能力・読解能力・整理能力を養う。また個人報告（グループ報告）を通して、プレゼンテーション能力を高める。</p> <p>加えて、共同討議で発言することで、「質問する力」や「コメントする力」を養う。したがって、「自分の報告が終われば出席しない」というような態度は認められない。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとテーマ設定、報告順の決定（1回目）</li> <li>2 講師による講義 報告のポイント共有（2回目）</li> <li>3 受講生による報告と共同討議 <ol style="list-style-type: none"> <li>3～5回目：戦後復興期</li> <li>6～9回目：高度経済成長</li> <li>9～10回目：70年代の家族</li> <li>11～12回目：80年代以降の消費社会</li> <li>13～14回目：90年代以降の現代</li> </ol> </li> <li>4 議論の総括とフィードバック（15回目）</li> </ol>											
----- 現代史学(演習II) (2)へ続く -----											

現代史学(演習II) (2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点及び達成度】**

平常点と期末レポートにより総合的に判断する。  
なお、平常点は授業内の報告と共同討議でのコメントで評価する。

**【教科書】**

授業中に指示する

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学習(予習・復習)等】**

個人報告(グループ報告)の順番が決まったあとは、担当する映像表現・資料を分析するだけではなく、その作品が当時の社会でどのように受け止められたのかを調査してもらう。  
そのため、大学図書館での予習が必須である。詳細は授業で指示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 朴 珍姫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		テレビドラマから考える韓国社会									
【授業の概要・目的】											
<p>近年アジアを中心に韓国のポピュラーカルチャーへの関心が高まっている。人々はそれを「韓流ブーム」と呼び、その中核には「K-POP」や「韓流ドラマ」などのメディアがある。中でも韓国のテレビドラマはそのほとんどが女性をターゲットに、また韓国国内市場で消費されることを前提に制作されており、韓国女性の欲望と社会情勢に非常に敏感に反応し、その時代によって変容してきた。</p> <p>本演習ではテレビドラマ作品やそれに関連する論文、書籍などを資料に韓国社会について考察する。まずその前提知識として講師が韓国社会におけるテレビドラマの形成過程について講義を行い、2～3回に渡って特定の作品を取り上げて分析を行う。受講生はそれを踏まえた上、各自取り上げるメディア作品を選択し報告・議論を行う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次資料の分析。</li> <li>・映像資料の分析・研究への活用方法を身につける。</li> <li>・プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>1回 ガイダンス - 受講者の発表順・日程調整を含む。</p> <p>2～4回 講師による講義 - 韓国におけるテレビドラマの形成過程と作品分析。</p> <p>5～14回 受講生による報告と共同討議</p> <p>15回 議論の総括</p> <p>なお、授業の進捗と受講者の状況によって、上記の予定を変更することがある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（報告内容、共同討議への貢献度、小レポート等）で評価する。											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

・映像資料を用いての報告することが必要になる。  
必要に応じて担当教員がその調査方法等をサポートする。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 78452 SJ38									
授業科目名 <英習>		現代史学(演習ⅢA) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透 文学研究科 教授 永原 陽子 文学研究科 准教授 塩出 浩之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代史研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>演習Ⅲは、現代史学専修に所属する学部生（3、4回生）、大学院生、教員が参加し、互いに切磋琢磨し、学知を共有することをめざすフォーラムである。</p> <p>授業は原則として、参加者が順番に自分の行っている、あるいは行おうとする研究について発表し、それをもとに授業参加者が討論する形式で行う。発表者は他者に自己の研究をわかりやすく提示する努力をすることで、自己の研究について理解をさらに深めるとともに、様々な角度からの意見や助言を受けることで、自分の抱える問題点について解決の糸口を見出すことができる。</p> <p>また、他者の研究報告をきくことにより、広大な領域にわたる現代史研究の広がりを実感するとともに、現代世界についての理解を深め、また現代史研究の様々な方法論を学ぶことができる。</p>											
【到達目標】											
この演習に参加する大学院生は、よき先輩として学部学生に研究上の助言ができるように努める。そうすることで、より広い視野で研究対象を眺めることができ、自分の研究方法を点検するきっかけとなる。											
【授業計画と内容】											
<p>最初に4月に大学院修士課程に入学した大学院生が、自分の卒論をもとに研究発表を行い、自分の卒論作成の経験を語る。</p> <p>次に何人かの大学院生が、自己の研究内容を報告し、現代史研究の実例と研究報告の方法について、参考となる手本を示す。</p> <p>そのあと、卒業予定者が自分の卒業研究の研究計画を順番に報告する。</p> <p>(全15回)</p>											
【履修要件】											
現代史学専修のホームルームのような位置づけの授業なので、可能な限り履修し出席すること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業への参加態度などの平常点によって評価する。											
----- 現代史学(演習ⅢA)(2)へ続く -----											

現代史学(演習III A)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

日頃から自分の研究に真摯にとりくみ、日々勉強を続けていなければ、よき学部生の模範となることはできない。さらにくわえて、自分の研究テーマをこえて、現代史についての幅広い知識を身につけるために多様な学習が必要とされる。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 78452 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習IIIB) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透 文学研究科 教授 永原 陽子 文学研究科 准教授 塩出 浩之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代史研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>演習IIIは、現代史学専修に所属する学部生（3、4回生）、大学院生、教員が参加し、互いに切磋琢磨し、学知を共有することをめざすフォーラムである。</p> <p>授業は原則として、参加者が順番に自分の行っている、あるいは行おうとする研究について発表し、それをもとに授業参加者が討論する形式で行う。発表者は他者に自己の研究をわかりやすく提示する努力をすることで、自己の研究について理解をさらに深めるとともに、様々な角度からの意見や助言を受けることで、自分の抱える問題点について解決の糸口を見出すことができる。</p> <p>また、他者の研究報告をきくことにより、広大な領域にわたる現代史研究の広がりを実感するとともに、現代世界についての理解を深め、また現代史研究の様々な方法論を学ぶことができる。</p>											
【到達目標】											
<p>この演習に参加する大学院生は、よき先輩として学部学生に研究上の助言ができるように努める。そうすることで、より広い視野で研究対象を眺めることができ、自分の研究方法を点検するきっかけとなる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>卒業予定者が自分の卒業研究の研究計画を順番に報告する。 その間、大学院生が、自己の研究内容を報告することもある。 (全15回)</p>											
【履修要件】											
現代史学専修のホームルームのような位置づけの授業なので、可能な限り履修し出席すること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業への参加態度などの平常点によって評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 現代史学(演習IIIB)(2)へ続く -----											

現代史学(演習III B)(2)

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

日頃から自分の研究に真摯にとりくみ、日々勉強を続けていなければ、よき学部生の模範となることはできない。さらにくわえて、自分の研究テーマをこえて、現代史についての幅広い知識を身につけるために多様な学習が必要とされる。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 7M412 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永原 陽子 文学研究科 教授 小野沢 透 文学研究科 准教授 塩出 浩之 文学研究科 教授 杉本 淑彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		大学院演習									
[授業の概要・目的]											
修士論文および博士論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、議論構築、文献調査、聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代史に関わる多様な研究テーマに対する学知を深める。											
[到達目標]											
この演習に参加する大学院生は、それぞれ自分の研究テーマをもち、日々研究を続けている。その研究の成果はそれぞれの修士論文、博士論文として結実する。この演習は各自の研究成果の中間発表の場であり、自分の研究のその時点での到達点を対象化し、表出することによって、次のステップに進む関門となる大事な場である。ここを通過することで、研究は着実に前進していく。修士課程の学生にとっては、修士論文の完成が到達目標であり、博士課程の学生については博士論文につながる学術論文の作成が到達目標となる。											
[授業計画と内容]											
1回目：修士論文・博士論文の予定テーマについて、各受講生がその概略を説明する。 2回目以降：各回とも、1名(場合によっては2名)の受講生が、修士論文・博士論文の予定テーマについて、研究の意義、先行研究、論旨、文献について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、さらに研究を進める場合の課題を考える。 (全15回)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点とレポートで総合的に評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) なし											
----- 現代史学(演習)(2)へ続く -----											

現代史学(演習)(2)

---

**[授業外学習（予習・復習）等]**

大学院生にとっては、毎日が研究の日々である。この演習は日々行われている研究の中間報告の場であって、この授業の予習や復習のために研究するのではない。

**（その他（オフィスアワー等））**

なし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 7M415 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 駒込 武			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		東アジアにおける「戦後」を考える									
【授業の概要・目的】											
<p>東アジアにおける「戦後」を考える。  さしあたって「東アジア」という範囲で考えているのは、日本・朝鮮・台湾・中国。ただし、日本における沖縄・奄美諸島や在日朝鮮人をめぐる状況、朝鮮半島および中国における内戦、台湾における「本省人」と「外省人」、中国大陸における漢族とモンゴル民族のあいだの緊張関係などを見据えながら、単に国家間の対立の次元ではなく、多元的・複層的な対立状況をふまえて考える。</p> <p>「戦後」東アジア各地に生じた独裁的な統治体制とこれに先行する帝国日本の統治体制はイデオロギー的には対立的であったとしても、全体主義的な統治の手法という点では通底する側面があったのではないか？その上で、生活や文化の次元においてこれを打ち破ろうとする動きがどのような形で存在しえたのか。  今日の日本社会における夜郎自大的な思想状況を克服して、「和解」と「平和」に連なる教育を構想するための基礎的作業として取り組みたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育問題を世界史的な視野から把握し、歴史認識や歴史教育をめぐる国家・地域間の対立を克服するための素養を養う。</li> <li>・思想史的な文献にかかわる読解能力を身に付ける。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>今年度前期は主に藤田省三『全体主義の時代経験 新装版』（みすず書房、2014年）を読む。藤田省三のテキストの丁寧な読解を中心としながらも、一方でハンナ・アーレントなど藤田の参照している思想にかかわる研究をフォローすると共に、他方において戦後東アジア世界の現実に即して「全体主義」という問題を考えるとどのような問題が見えてくるのか（あるいは「全体主義」という角度から切り込むのが不適切だとすればそれはなぜなのか）を考える場としたい。</p> <p>第1回 オリエンテーション  第2回～第14回 藤田省三『全体主義の時代経験 新装版』を読む。  第15回 総合討論</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点…報告（50%）と授業内での発言（50%）。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

---

[参考書等]

(参考書)

[授業外学習(予習・復習)等]

指定された文献を事前に読んでおくことが「予習」としての意味を持つ。

(その他(オフィスアワー等))

新規参加希望者は、かならず第1回目の授業よりも前に、駒込まで連絡すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 7M415 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 駒込 武			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		東アジアにおける「戦後」を考える									
【授業の概要・目的】											
<p>東アジアにおける「戦後」を考える。  さしあたって「東アジア」という範囲で考えているのは、日本・朝鮮・台湾・中国。ただし、日本における沖縄・奄美諸島や在日朝鮮人をめぐる状況、朝鮮半島および中国における内戦、台湾における「本省人」と「外省人」、中国大陆における漢族とモンゴル民族のあいだの緊張関係などを見据えながら、単に国家間の対立の次元ではなく、多元的・複層的な対立状況をふまえてを考える。</p> <p>「戦後」東アジア各地に生じた独裁的な統治体制とこれに先行する帝国日本の統治体制はイデオロギー的には対立的であったとしても、全体主義的な統治の手法という点では通底する側面があったのではないか？その上で、生活や文化の次元においてこれを打ち破ろうとする動きがどのような形で存在しえたのか。  今日の日本社会における夜郎自大的な思想状況を克服して、「和解」と「平和」に連なる教育を構想するための基礎的作業として取り組みたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育問題を世界史的な視野から把握し、歴史認識や歴史教育をめぐる国家・地域間の対立を克服するための素養を養う。</li> <li>・思想史的な文献にかかわる読解能力を身に付ける。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>今年度後期は主に呉叡人『受困的思想』（衛城出版、2016年）を読む。  本書は、台湾の歴史と現在の双方を視野に入れながら、台湾における植民地主義・民族主義とは何であるかを問う歴史書であると同時に、政治と道德との関係をラディカルに考察した思想的著作である。東アジア世界における「戦後」を全体主義という言葉で把握できるとして、「更新されるべき正義（轉型正義）」という観点からこれを打ち破ろうとする書物として読むこともできる。  テキストは中文なので、参加者は基本的に駒込による試訳に基づいて討議する（中文読解能力のある者は、原文と照らし合わせて駒込試訳の適切さについても論を提起することが期待される）。</p> <p>第1回 オリエンテーション  第2回～第14回 呉叡人『受困的思想』（衛城出版、2016年）を読む。  第15回 総合討論</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

平常点...報告(50点) + 参加状況(出席、授業内での発言等)(50点)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

テキストの読解が授業の「予習」となる。

**(その他(オフィスアワー等))**

初めてこの授業に参加する者は、必ず第1回目の授業よりも前に連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。